ISSN1341-397X

年報　平成二十七年度　公益財団法人　山形県埋蔵文化財センター

年　報

平成27年度

平成28年５月

公益財団法人　山形県埋蔵文化財センター

序

山形県埋蔵文化財センターは、平成５年に財団法人として創設以来、また平成 24 年からは公益財団法人として、関係諸機関の御支援・御協力をいただきながら取り組みを進めてまいりました。本年度における当センターの事業については、計画した事業のすべてについて円滑に実施することができました。

その概要について申し上げますと、はじめに、調査事業においては、延べ６遺跡の発掘調査と、延べ12遺跡の報告書作成のための整理作業を実施し、１冊の発掘調査報告書を刊行いたしました。本県における近年の発掘調査の傾向は、県公共事業の減少が引き続き見られ、国による新直轄事業の高速交通網整備に伴う事業もピークを過ぎたことから、今後予想される高速道路の県境部分の整備や県の公共事業等の事業量を的確に把握しつつ、調査体制の整備に努めていかなければなりません。今後とも、責任ある発掘調査を基本とした調査研究に取り組んでまいります。

次に、普及啓発事業につきましては、埋蔵文化財保護の重要性の周知や、埋蔵文化財を通して古代の人との心の交流の場を県民の皆さんに提供するという基本姿勢のもとに、ホームページでの情報発信や調査遺跡における発掘調査説明会の開催、広報誌「埋文やまがた」の刊行などを通して、埋蔵文化財の調査研究の成果を県民の皆さまにお知らせしてまいりました。今年度も普及啓発事業実行委員が中心となり、さまざまな普及啓発事業を計画、実施してまいりました。

中でも、体験講座、遺跡見学と２回にわたり開催した「ふるさと考古学講座」では、考古学の面白さや先人の知恵や工夫に触れる機会を持つことができ、多数の参加者の方々から満足いく内容であったという声をいただくことができました。平成 20 年度から開催している「山形県埋蔵文化財センター参観デー」は、中山地区に移転後３回目ということで、より内容を充実させながら、特別展示、センターの業務内容の紹介、琥珀の勾玉作り、整理作業などの考古学体験等を実施し、多くの来場者を得ることができました。

また、山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館との共同展示や、最上広域交流センター「ゆめりあ」・鶴岡市朝日中央コミュニティセンター「すまいる」・山形市遊学館での「出前展示」を行い、県民の皆さんに出土品を公開し、当センターの事業への理解や文化財保護の重要性について広く普及を図ったところです。さらに、学校現場からの依頼を受けた「出前授業」は 26 校で実施したほか、職員を派遣しての講演や体験活動、調査研究発表等を実施してまいりました。

埋蔵文化財センターでは、これからも「公益」という言葉の重みを職員一人ひとりが胸に刻み、次世代を担う子供達に地域の伝統文化の大切さを伝えるため、あるいは誇りと自信の持てる地域づくりの一助とするため、さまざまな機会を活用して、県民共有の文化遺産としての価値ある埋蔵文化財を後世に伝えて行けるよう、職員一同、一層研鑽を重ねていく所存であります。

平成 28 年３月 31 日

公益財団法人山形県埋蔵文化財センター
理事長　　菅　野　　滋

目　次

Ⅰ.管理運営概要
1．沿　革…… 3
2．組　織
(1) 役員及び評議員…… 3
(2) 職制及び人員…… 4
(3) 組　織…… 4
(4) 職　員…… 5
3．施　設…… 6

Ⅱ.事業概要
1．調査業務…… 7
(1) 調査遺跡一覧 …… 8
(2) 調査遺跡の概要
上竹野遺跡…… 10
羽黒神社西遺跡　第２次…… 14
山形城三の丸跡　第16次…… 18
山形城三の丸跡　第17次…… 22
押出遺跡　第６次…… 26
馳上遺跡　第７次…… 30

2．普及・啓発・研究等業務
（1）研修等
①全国埋蔵文化財法人連絡協議会事業への派遣…… 32
②埋蔵文化財担当者専門研修への派遣…… 32

（2）普及啓発
①普及啓発実行委員…… 32
②センター公開事業…… 33
③ふるさと考古学講座…… 34
④研修講座…… 34
⑤外部展示…… 35
⑥学校への協力…… 36
⑦来所者…… 37
⑧調査説明会…… 38
⑨職員派遣等…… 39
⑩資料貸出…… 42
⑪資料掲載許可…… 43
⑫出版物 …… 44
⑬ホームページ…… 44

（3）情報処理
収蔵図書データベース…… 44

Ⅰ　管理運営概要

１．沿　革

山形県には、土地に埋蔵された埋蔵文化財や史跡、有形文化財、民俗文化財などが数多く残されています。これらの文化財は、長い歴史の中で生まれ、育まれ、そして今日まで守り伝えられてきた貴重な県民の文化遺産であり、これを保護・活用し、次世代に確実に継承していくことが大事です。

山形県埋蔵文化財センターは、埋蔵文化財の保護と県土の開発を両立させて調和を図るため、平成５年４月に山形県の出資によって「財団法人」として設立され、平成 24 年度には「公益財団法人」に移行しました。当センターでは、埋蔵文化財の調査研究を通じて、県民の文化生活の向上と地域文化の振興に寄与することを目的として、

１．県内遺跡等埋蔵文化財の調査研究
２．埋蔵文化財の発掘調査
３．埋蔵文化財の活用と保護思想の普及

の三つを基本とした各種事業を推進しております。

平成 27 年度に新たに策定された第６次山形県教育振興計画では、『人間力にあふれ、山形の未来をひらく人づくり』を基本目標に掲げ、『「いのち」をつなぐ人』、『学び続ける人』、『地域とつながる人』の三つを目指す人間像としています。埋蔵文化財については、『主要施策１５　山形の宝の保存活用・継承』の中で、その保護と活用、ならびに（公財）山形県埋蔵文化財センターとの連携の強化が謳われています。

近年、当センターでは、埋蔵文化財の教育的価値を認識してもらう視点に立って、「発掘調査速報会」や「ホームページによる情報提供」、「出前授業」、「外部展示」などの普及啓発活動についても力を注いでおります。

２．組　織

（１）役員及び評議員

役　員

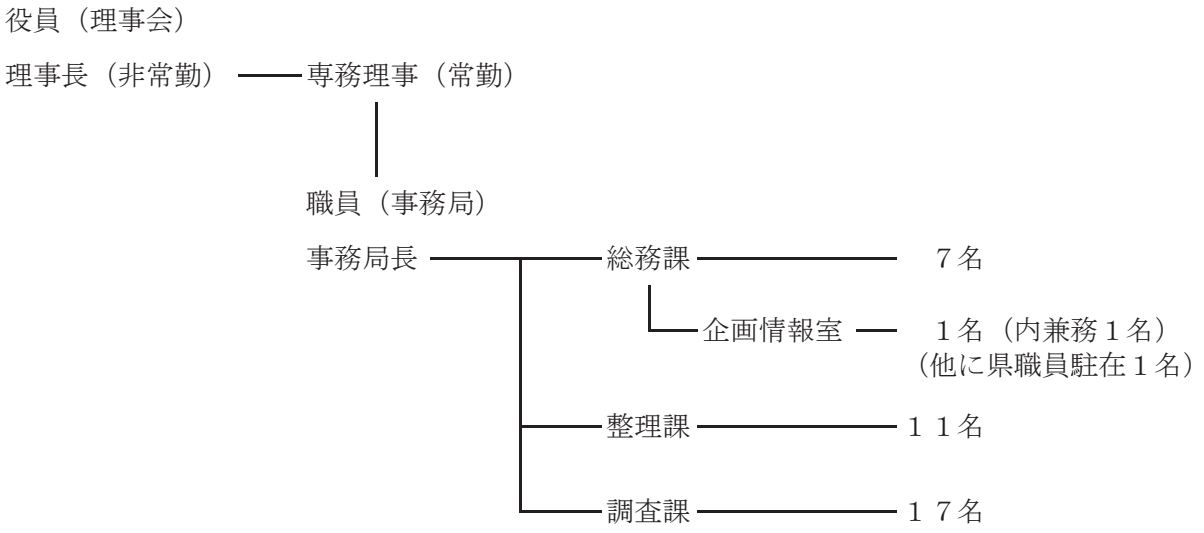
理事長	菅野　　滋	山形県教育委員会教育長（平成 25 年４月１日就任）
専務理事	三浦　秋夫	財団常勤役員
理　事	松田　洋一	公益財団法人山形県生涯学習文化財団　専務理事
理　事	渡邉　弘明	公益社団法人山形県私立学校総連合会　常務理事
理　事	渋谷　孝雄	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館　館長
理　事	山川　秀秋	山形県教育庁文化財・生涯学習課　課長
監　事	榔野　哲郎	税理士有資格者
監　事	小関　正弘	山形県教育庁総務課　課長

評議員	長澤　正機	最上地域史研究会　理事
評議員	小野　　忍	酒田市文化財保護推進員
評議員	角屋由美子	公益財団法人米沢上杉文化振興財団　学芸主査
評議員	鈴木　恒雄	元　特殊法人山形県信用保証協会　専務理事
評議員	佐藤　庄一	東北芸術工科大学　非常勤講師
評議員	早川　　均	山形県県土整備部道路整備課　課長
評議員	松本　　勉	山形県農林水産部農村整備課　課長

（２）職制及び人員

事務局長	（１ 名）
課　長	３ 名
室　長	（１ 名）
課長補佐	１ 名
調査研究専門員	３ 名
主　査	１ 名
専門調査研究員	３ 名
係　長	１ 名
主任調査研究員	６ 名
調査研究員	１ 名
調査員	１２ 名
事務員	４ 名
計	３５ 名

（３）組　織



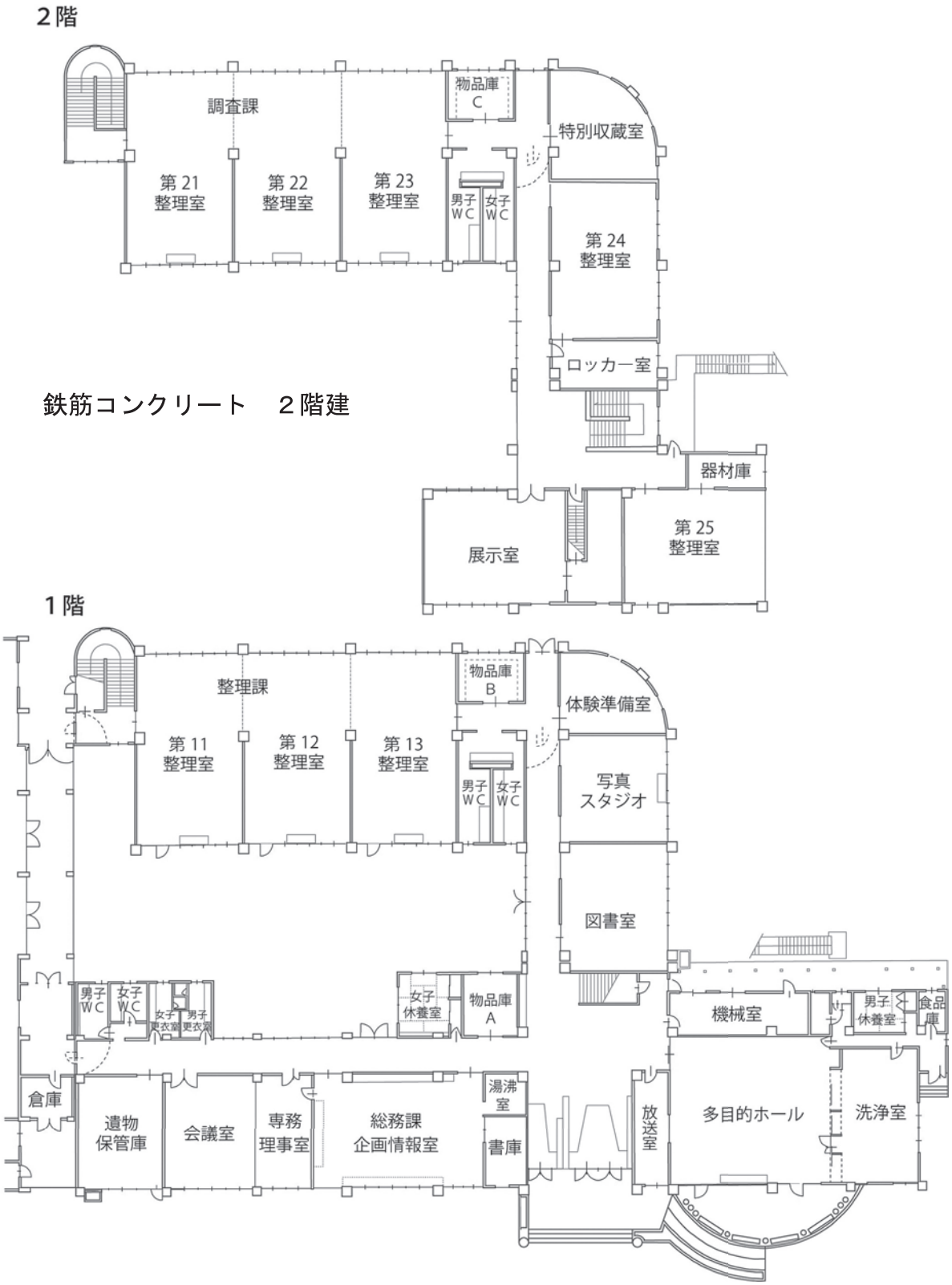
（4）職　員

課　名	職　名	氏　名	所　属
総　務　課	事務局長（兼任）	（三浦　秋夫）	専務理事
	総務課長（兼）企画情報室長	黒坂　雅人	財団職員
	総務係長	髙桑　弘美	財団職員
	課付専門調査研究員	植松　暁彦	財団職員
	事務員	渡邉　睦子	
	事務員	中川未来絵	
	事務員	林　浩子	
	事務員	樋口　愛美	
企画情報室	駐在（埋蔵文化財調査研究員）	（向田　明夫）	（文化財・生涯学習課）
整　理　課	課　長	伊藤　邦弘	財団職員
	調査研究専門員	齊藤　主税	財団職員
	調査研究専門員	氏家　信行	財団職員
	主任調査研究員	髙桑　登	財団職員
	主任調査研究員	天本　昌希	財団職員
	主任調査研究員	草野　潤平	財団職員
	調査員	五十嵐　萌	
	調査員	後藤枝里子	
	調査員	山田めぐみ	
	調査員	渡邉　安奈	
	調査員	森谷　康平	
調　査　課	課　長	斉藤　敏行	
	課長補佐	須賀井新人	財団職員
	調査研究専門員	小林　圭一	財団職員
	専門調査研究員	菅原　哲文	財団職員
	専門調査研究員	齋藤　健	財団職員
	企画調整主査	原田　英明	財団職員
	主任調査研究員	水戸部秀樹	財団職員
	主任調査研究員	菊池　玄輝	財団職員
	主任調査研究員	大場　正善	財団職員
	調査研究員	渡辺　和行	財団職員
	調査員	岩崎　恒平	
	調査員	高木　茜	
	調査員	安部　将平	
	調査員	板橋　龍	
	調査員	阿部　明彦	
	調査員	木村　恵理	
	調査員	安達　将行	

３．施　設

公益財団法人山形県埋蔵文化財センターは、平成24年11月末まで、山形県上山市弁天二丁目15番1号にて業務を行ってきたが、耐震構造上の問題と施設の老朽化のため、同年12月１日より、山形県上山市中山字壁屋敷5608番地に移転した。

現在当所の施設は、以下の通りとなる。



Ⅱ　事業概要

１．調査業務

平成 27 年度は、国土交通省、東日本高速道路(株)、山形県および米沢市から委託を受け、道路建設と道の駅建設に先だっての発掘調査と整理作業を実施しました。

発掘調査は５遺跡６件について行い、総調査面積は 10,594 ㎡になります。出土品は、土器等 1,078 箱が出土文化財の認定を受けました。

報告書作成のための整理作業は延べ 12 遺跡について実施し、そのうち１遺跡１冊の発掘調査報告書を刊行しました。

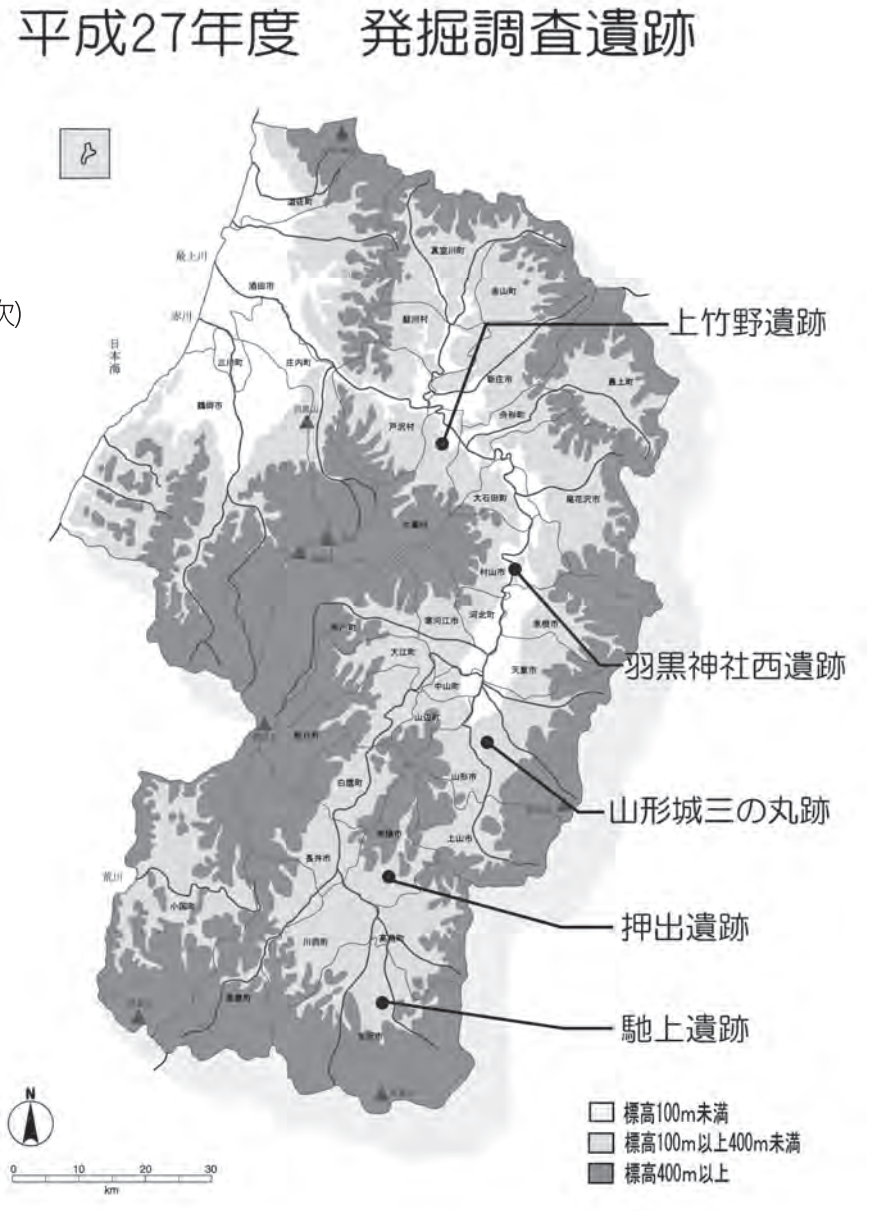
1　上竹野(うわたけの)遺跡

2　羽黒神社西(はぐろじんじゃにし)遺跡(第２次)

3　山形城三(やまがたじょう)の丸跡(第 16･17 次)

4　押出(おんだし)遺跡(第６次)

5　馳上(はせがみ)遺跡(第７次)



※本書中の「調査遺跡の概要」の記述内容は概要の報告であり、発掘調査報告書の刊行をもって本報告となります。

（1）調査遺跡一覧

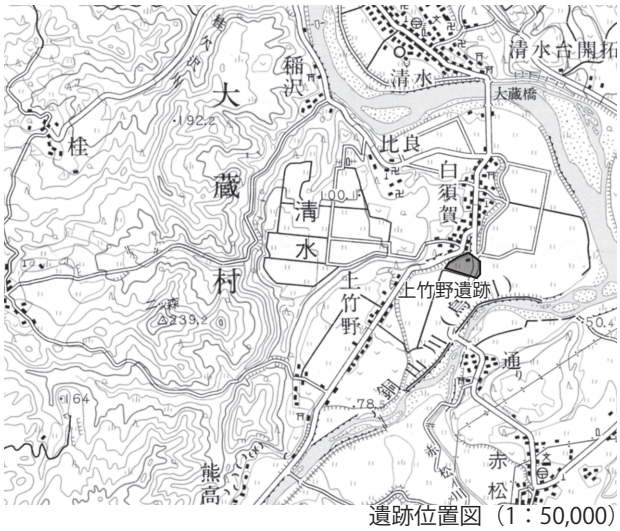
NO.	遺跡名	所在地	主な時代	遺跡の種別	調査期間
1	上竹野遺跡	大蔵村	縄文・弥生	集落跡	6月1日 ～ 11月13日
2	羽黒神社西遺跡 (第2次)	村山市	縄文	集落跡	5月25日 ～ 11月27日
3	山形城三の丸跡 (第16次)	山形市	奈良・平安・中世・近世	城館跡 集落跡	6月5日 ～ 12月4日
4	山形城三の丸跡 (第17次)	山形市	奈良・平安・中世・近世	城館跡 集落跡	5月25日 ～ 11月12日
5	押出遺跡 (第6次)	高畠町	縄文	集落跡	11月2日 ～ 12月25日
6	馳上遺跡 (第7次)	米沢市	古墳～中世	集落跡	11月2日 ～ 11月20日
7	清水遺跡 (第8次)	村山市	縄文・平安	集落跡	
8	清水遺跡 (第1・3・7次)	村山市	奈良・平安	集落跡	
9	蝉田遺跡 (第1・2次)	村山市	平安・近現代	集落跡	
10	八反遺跡 (第1～3次)	東根市	古墳・奈良・平安・中世	集落跡 墓地跡	
11	馳上遺跡 (第2～4・6次)	米沢市	古墳～中世	集落跡	
12	八幡一遺跡	川西町	奈良・平安	集落跡	

調査面積：平方m	文化財認定数：箱	起因事業＜委託者＞	業務内容			調査経費：円
			発掘	整理	報告書	
3,650	124	一般国道458号道路改良〈県土整備部〉	○	○	－	68,495,760
3,400	198	東北中央道（東根～尾花沢）〈国土交通省〉	○	○	－	77,152,100
1,400	71	一般国道112号霞城改良事業〈国土交通省〉	○	○	－	79,106,600
1,339	54	山形広域都市計画道路事業3･2･5号旅篭町八日町線〈県土整備部〉	○	○	－	55,466,000
125	630	東北中央道（南陽高畠～山形上山）に係る付け替え水路工事〈東日本高速道路(株)〉	○	○	－	28,575,000
680	1	米沢市新道の駅よねざわ整備事業 主要地方道米沢高畠線　道の駅（川井）工区 〈米沢市産業部･置賜総合支庁建設部〉	○	○	－	8,738,800
		一般県道村山大石田線村山北ＩＣ(1)設置工事〈県土整備部〉	－	○	○	23,109,840
		東北中央道（東根～尾花沢）〈国土交通省〉	－	○	－	31,598,000
		東北中央道（東根～尾花沢）〈国土交通省〉	－	○	－	47,922,000
		東北中央道（東根～尾花沢）〈国土交通省〉	－	○	－	48,084,000
		東北中央道（米沢～米沢北）〈国土交通省〉	－	○	－	42,495,000
		一般国道113号梨郷道路〈国土交通省〉	－	○	－	26,957,000
10,594	1,078					537,700,100

（2）調査遺跡の概要

上竹野（うわたけの）遺跡

遺 跡 番 号　365-004
調 査 次 数　第 1 次
所　在　地　山形県最上郡大蔵村清水字上竹野
北緯・東経　38 度 41 分 27 秒・140 度 13 分 43 秒
調査委託者　最上総合支庁建設部道路計画課
起 因 事 業　一般国道 458 号道路改良工事
調 査 面 積　3,650 ㎡
受 託 期 間　平成 27 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日
現 地 調 査　平成 27 年 6 月 1 日～ 11 月 13 日
調査担当者　菅原哲文（現場責任者）・安部将平・安達将行
調 査 協 力　大蔵村教育委員会　地域整備課
遺 跡 種 別　集落跡
時　　代　縄文・弥生
遺　　構　竪穴住居跡・掘立柱建物跡・捨て場・土坑・柱穴・土器埋設遺構
遺　　物　縄文土器・弥生土器・土製品・石器・石製品　（文化財認定箱数：124 箱）



遺跡位置図（1：50,000）

調査の概要

上竹野遺跡は、大蔵村清水（しみず）字上竹野に所在する。最上川に合流する銅山川左岸の段丘上に立地し、標高は約 70 mを測る。当遺跡は古くから存在が知られており、昭和 29 年に山形大学を中心とした発掘調査が行われ、縄文時代終末から弥生時代の遺跡として山形県史などに報告されている。周囲の遺跡では、北東約 750 mの位置に縄文時代中期を中心とする白須賀（しらすか）遺跡が立地する。

発掘調査区は、1 ～ 4 区に分けた。6 月 1 日より 1 ～ 3 区の約半分について調査を実施し、8 月 19 日より残りの調査区に着手し、11 月 13 日までの期間で調査を実施した（図 1 左上）。また、当初の予定よりも大幅な遺構・遺物の増となったため、一部次年度に調査を繰り越す予定となった。

遺構と遺物

縄文時代と弥生時代の遺構・遺物が確認された。主な遺構として、竪穴住居跡 4 基、掘立柱建物跡 1 基、捨て場 6 カ所、土坑、柱穴などが確認された（図 1）。

縄文時代の遺構として 2 基の竪穴住居跡と掘立柱建物跡などが検出された。ST 1 竪穴住居跡は、直径約 6m の円形を呈し、覆土から晩期中葉の遺物が、床面下から

写真 1　遺跡遠景（北から）

は後期後葉の土器が出土した。主柱穴は４基で壁際には壁柱穴がめぐる（写真３）。ST38 竪穴住居跡は長軸 4.2 m、短軸 3.8 mの楕円形状で、後期後葉の遺物が出土した。中央には石囲炉が備えられ柱穴が３基確認された（写真４）。SB95 掘立柱建物跡は４基の柱穴で構成され一辺約４mほどの規模である（写真２）。柱穴の掘り方は直径 80 ～ 95cm、深さは 50 ～ 70cm である。この他に、大型の掘り方を持つ柱穴が検出されており、掘立柱建物跡は複数存在する可能性がある。

弥生時代の遺構であるが、竪穴住居跡２基が検出された。ST202 竪穴住居跡は、推定直径が約８mで、覆土から大量の弥生時代の遺物が出土した（写真５）。床面には地床炉と考えられる焼土や、周溝と思われる溝状のプランが検出された。建て替えや拡張が行われている可能性がある。ST193 竪穴住居跡は、壁面の立ち上がりが不明瞭であるが、直径約５～６m の規模と推定され中央には石囲炉が検出された（写真６）。覆土中からは磨消縄文の文様が施される弥生土器が出土した。

捨て場は各調査区から確認された。１区北東の SF ２捨て場は、主に後期後葉の遺物が出土し、周囲の竪穴住居跡などの遺構に関連するものと思われる。

２区では、南西部に SF ３、東側に SF133 捨て場が検出された。また、３区の SF60 捨て場では大量の弥生土器を中心とする遺物が廃棄され、底面近くからは頭部を欠くがその下はほぼ完形の土偶が出土した（写真７）。

遺物であるが、縄文土器は前期初頭・中期前半・後期前葉・後期後葉・晩期など今まで把握されていなかった時期のものも出土している。弥生土器は最も出土量が多く、甕・深鉢・鉢・高坏・壺・蓋などの多様な器種が見られる（写真 10）。その他、土版、石刀、線刻礫などの祭祀具と考えられる遺物も出土している。

まとめ

調査では、縄文時代後期後葉の竪穴住居跡と掘立柱建物跡から構成される集落跡が確認された。また、弥生時代では、前期から中期初め頃と考えられる竪穴住居跡や捨て場などが確認された。弥生時代の集落跡の調査は、県内ではまだ調査事例が少なく住居や他の遺構との関係が把握できる良好な事例となりそうである。また、SF60 捨て場から出土した土偶は、弥生時代初め頃に帰属すると推測され、埋納されたような出土状況から、土偶祭祀の終末における様相を検討する上で興味深い事例である。

写真２　１区北側遺構完掘状況 (右から ST1、SB95、ST38)

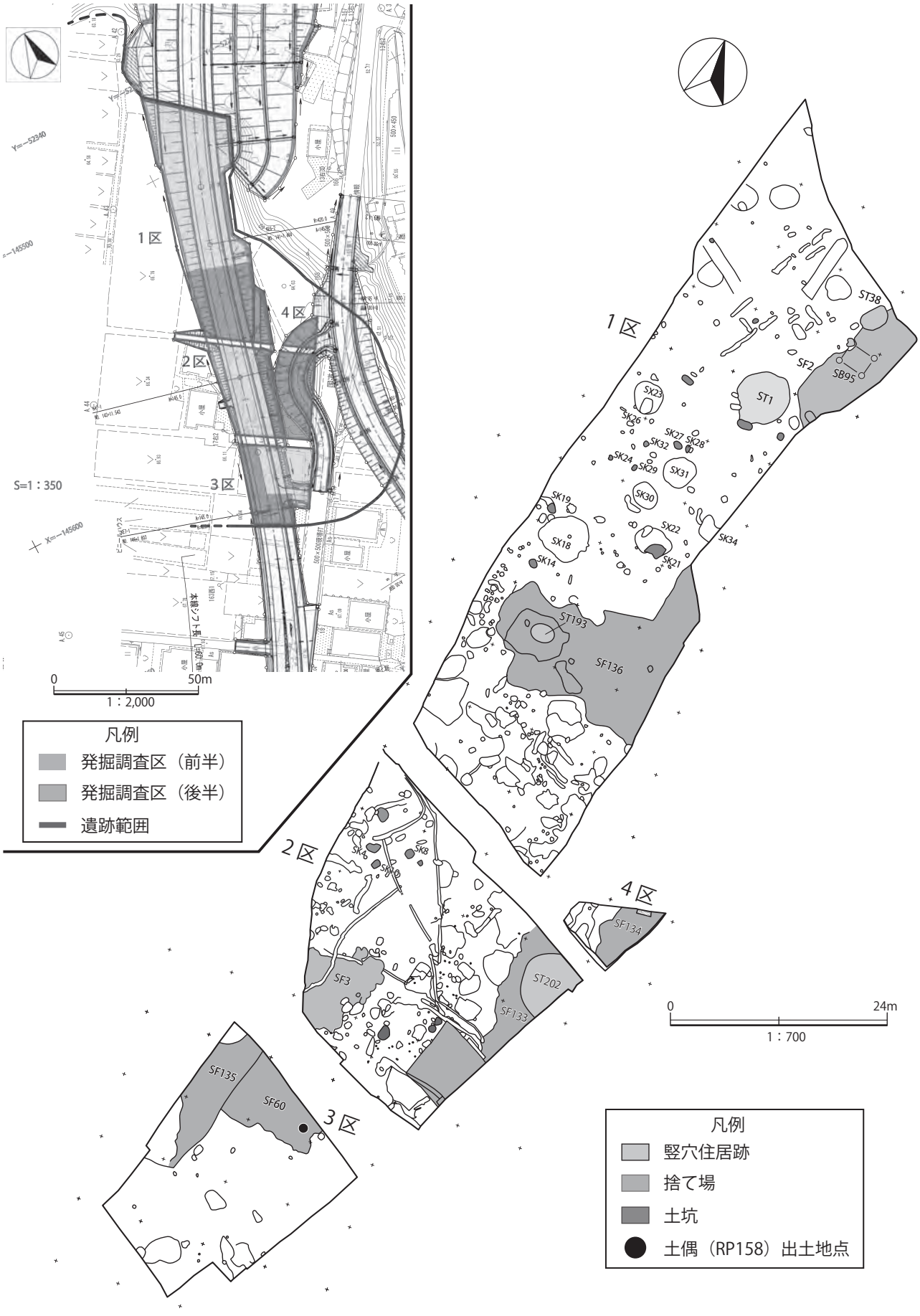


図１　調査区概要図・遺構配置図

写真３　ST1 竪穴住居跡完掘状況（西から）

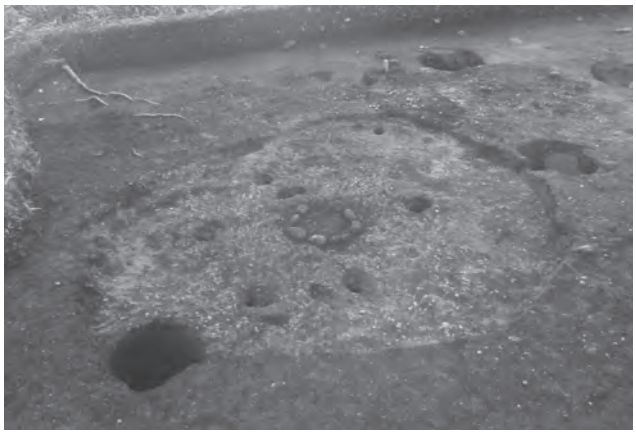


写真４　ST38 竪穴住居跡完掘状況（北西から）

写真５　ST202 竪穴住居跡遺物出土状況（西から）

写真６　ST193 竪穴住居跡掘り下げ状況（北から）

写真７　SF ３捨て場土偶出土状況

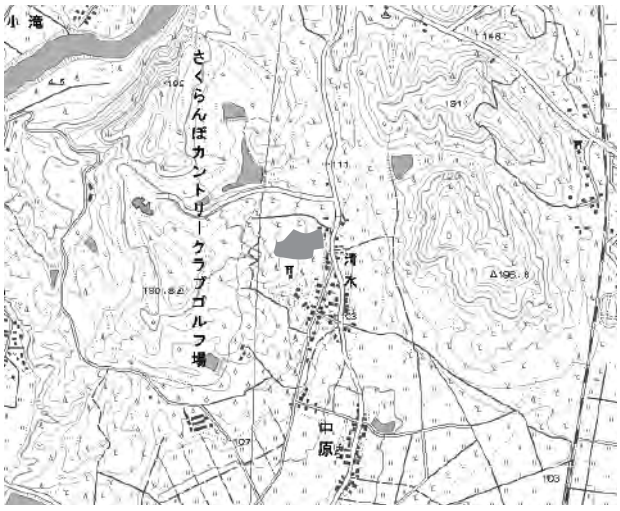
写真８　蓋出土状況（西から）

写真９　SF3 捨て場遺物出土状況

写真 10　出土した弥生土器

羽黒神社西遺跡（第２次）

遺跡番号　208-159
調査次数　第２次
所在地　山形県村山市名取
北緯・東経　38 度 31 分 01 秒・140 度 22 分 25 秒
調査委託者　国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
起因事業　東北中央道（東根～尾花沢間）
調査面積　3,400 ㎡
受託期間　平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日
現地調査　平成 27 年 5 月 25 日～ 11 月 27 日
調査担当者　大場正善（現場責任者）・渡辺和行・菊池玄輝
調査協力　村山市教育委員会
遺跡種別　集落跡
時代　縄文（早期・前期・中期・晩期）・古墳？・平安
遺構　掘立柱建物跡・盛土状遺構・フラスコ状土坑・土坑・石囲い炉・土器敷き石囲い炉・土坑墓
遺物　縄文土器・石器・土偶・石棒・土師器・須恵器・赤焼き土器・砥石　（文化財認定箱数：198 箱）



遺跡位置図（1：50,000）

調査の概要

遺跡の位置　羽黒神社西遺跡は、村山市名取字清水に所在する。遺跡は、最上川の三難所の一つ「隼の瀬」の南から約 1.8km 離れた、河島山丘陵の東側に舌状に張り出した丘陵地に立地する（写真 1）。遺跡周辺は、「清水」という字名が示すように、近隣に湧水する場所がいくつか認められる。北西に約 4km 離れた同市富並には、縄文時代中期の環状集落跡として著名な西海渕遺跡があり、そのほか市内湯野沢の中村 A 遺跡、土生田の落合遺跡など、遺跡の近くには縄文時代中期の遺跡が多く存在している。

調査の経過　遺跡は、平成 25 年度の県教委による分布調査で存在が明らかとなり、翌年に当センターが第 1 次発掘調査を行った。第 1 次調査では、縄文時代中期を中心とする大量の土器や打製・磨製石器、土偶、袋状土製品などとともに、フラスコ状土坑や盛土状遺構などの遺構が発見された。第 2 次調査は、第 1 次調査からの引き続きである 3・4 区の遺構精査、および新たに設定した南側の 5 区と北側の 6 区の掘り下げと遺構精査を行った。

遺構と遺物

フラスコ状土坑　3・4 区では、合計 13 基の大小のフラスコ状土坑が確認された。第 1 次調査時発見のフラスコ状土坑とあわせると計 17 基になる。フラスコ状土坑は、深さが約 2.5m で底部の幅が約 2m のものから、深さが約 1m で底部の幅が約 1m のものまである。これらの土坑の大半は、下から 3/4 程度まで意図的に埋められ、それより上は自然堆積であった。埋土はクロボク土や地山の土を主体に、大量の木炭と、土器片や石器資料が混在していた（写真 5）。なかには炭化物の単層があり、炭化物層の直下が赤色化しているものも確認された。一部のフラスコ状

写真 1　調査区全景（南西から）

写真 2　SK393 大型フラスコ状土坑断面（北東から）

写真 3　4 区 SF513 盛土状遺構南北断面（1 次調査：南西から）

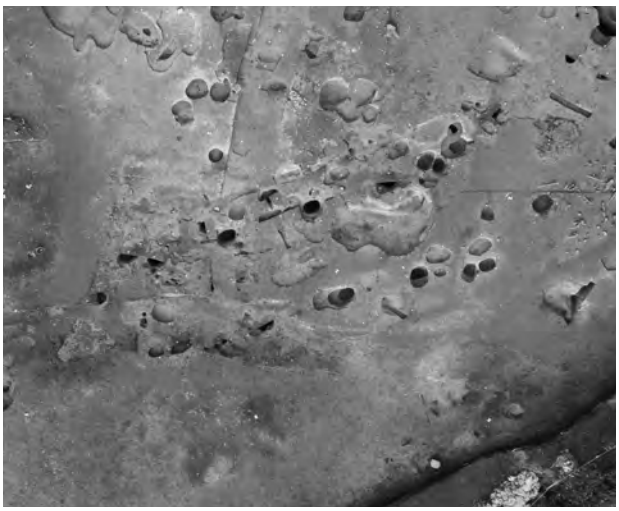


写真 4　SB561 掘立柱建物跡（俯瞰：上が北）

土坑では、底面やその付近で完形の深鉢形・浅鉢形土器が倒立、あるいは横転の状態で出土した。また 3 区の東側の SK326 の底面では、多数の線条痕（せんじょうこん）が確認され、線条痕の規則性からすだれ状の圧痕である可能性が想定された。

盛土状遺構　盛土状遺構は、第 1 次調査で 3 区と 4 区にそれぞれ 1 カ所ずつ確認していた（SF488・513）。第 2 次調査において、盛土状遺構の精査を行ったところ、盛土層は、クロボク土、あるいはクロボク土を起源とする土壌の上に、厚さ 20cm 程度の地山の土壌を主体としている。盛土層自体には遺物をあまり含んでいないが、その上下からは、縄文時代中期の遺物が多量に出土した。

焼土遺構　焼土（しょうど）遺構の認定については、赤色に変化し、炭化物が混じる範囲とした。焼土遺構は、3 区・4 区のとくに境界付近や、盛土状遺構の周辺に多く認められた。また、後述する 3 区の掘立柱建物跡（ほったてばしらたてものあと）の付近や、6 区の中央付近でも認められた。

フラスコ状土坑の構築・埋め立て　翻って、土坑の埋土や盛土状遺構、遺物の分布状況、焼土遺構をあわせて考えると、フラスコ状土坑は地山を 1 ～ 2.5m 掘る必要があり、その際には、多量の土、つまり廃土（はいど）が排出されることになる。盛土状遺構の盛土層は、地山の土を主体にしており、そのことから、盛土遺構がフラスコ状土坑の掘削時の廃土置き場であった可能性がある。盛土状遺構の上下やその周囲には、縄文中期の遺物を中心とする遺物が拡がっており、また焼土遺構も盛土状遺構の周りに点在する。土坑の埋土中の遺物や炭化物が、盛土状遺構の上下や周りに分布する遺物分布や焼土遺構に由来するならば、フラスコ状土坑は、遺物や炭化物が混じった廃土を利用して埋め立てられた可能性が考えられる。このことは、今後の整理作業でフラスコ状土坑と、フラスコ状土坑外出土の遺物との接合作業を通じて、検証していきたい。なお、打製

図1　調査区平面図

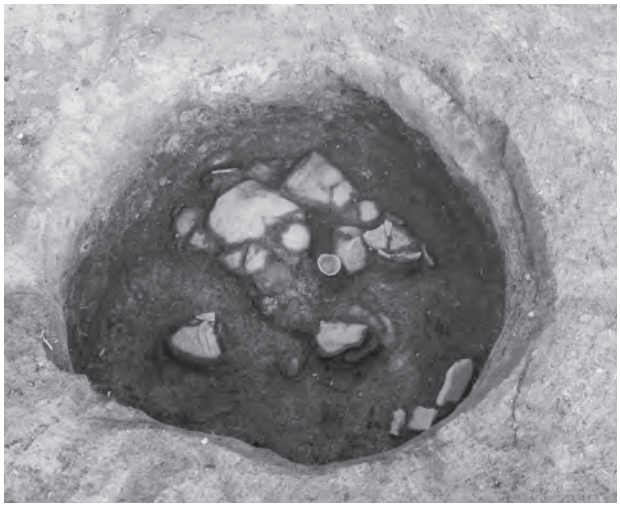


写真5　SK307 フラスコ状土坑内遺物出土状況（南から）

写真6　SK237 内遺物出土状況（南から）

石斧や、土掘りの際に残された特徴的な使用痕を残す石器が発見されておらず、土坑の掘削には、木製品を用いていた可能性が考えられる。

掘立柱建物跡　第2次調査では、3区の5区境界付近で、1間×4間で約4×11mのSB561掘立柱建物跡が1基確認された。建物跡内にはSL0230石囲い炉や焼土遺構があり、また周辺からは縄文時代中期の土器や石器などの遺物も多く出土した。第1次調査では、ヒトが住んでいた場所が不明であったが、当該遺構は、中期の居住空間であった可能性がある。また、4区のフラスコ状土坑に隣接するSX227は、約3.5m×2.8mで、楕円形を呈する小型の竪穴住居の可能性がある。そのSK227の中心には、小型のフラスコ状土坑があり、フラスコ状土坑を埋めたのちに、竪穴住居が構築されたことになろう。

6区の石囲炉跡と柱穴　調査区北側の6区では、数個の川原石を径50cm程度に丸く囲ったSL232石囲炉が1基確認された。周囲には、縄文中期の土器がややまとまって出土したものの、柱穴などの遺構が確認されず、屋外に設けられた炉であった可能性がある。しかし、石組の石には被熱痕跡が認められるが、炉の中心部では、焼土や炭化物が確認されなかった。6区では、このほかに北西の調査区壁沿いで、径30cm、50～60cm程度の深さの柱穴と思われる遺構が確認された。

中期の遺物　第2次調査では、全体でコンテナ約200箱の遺物が出土した。遺物の大半は、縄文中期に属する。大小の深鉢形や浅鉢形の土器、土偶、袋状・管状土製品、朱彩（漆塗り?）された有孔鍔付き土器、石鏃、石匙、直刃スクレイパー、エンドスクレイパー、ヘラ形石器、異形石器、剥片・石核、磨製石斧、磨石、ハンマーストーン、石皿、支脚付石皿、有孔石製品、擦痕のある水晶などである。土器は、大木8b式のものが大半を占めることから、縄文中期のごく短期間に遺跡が形成されたものと考えられる。石器については、トゥールの比率が多く、総じて刃部などの磨滅や破損が認められる。

早期・前期・晩期の遺物　第2次調査では、第1次調査と同様に、縄文早期前葉の押型文、沈線文、条痕文土器が出土した。今回は、これらに加えて、早期後葉の貝殻腹縁文土器片が出土した。また、わずかながら、大木1式に相当する繊維を含んだ羽状縄文土器や、6区の東側で縄文晩期に相当する土器片も出土した。

古墳時代の土師器　また、今回の調査では、3区において古墳時代中期に帰属すると考えられる土師器の丸底の碗と思われる土器片が1点発見された。本遺跡から北東に1.3km離れた村山市東熊野苗畑遺跡では、センターの調査によって河川跡から古墳時代前期と考えられる甕が出土し、また河島山丘陵には、名取古墳や河島山古墳群、集落跡である八反遺跡がある。そのため、近隣には古墳時代の集落などの遺跡が存在する可能性が考えられる。

平安時代の土坑墓　6区の南側では、埋土中に平安時代の赤焼土器の坏が1点出土した、楕円形のSK237土坑が1基確認された（写真6）。土器の出土状況は、土坑の東側に偏った位置に、内面を天に向けて据えられたような状態であった。その出土状況と土坑の規模から、墓壙、つまり土坑墓であった可能性が考えられる。また、土器の外面には、三十を表す「卅」と、「コ」のような文字が墨書されていた。おそらく何らかの数量を意味すると思われる。なお、「卅」が墨書された土器は、遺跡の南側に位置する清水遺跡1でも確認されている。

まとめ

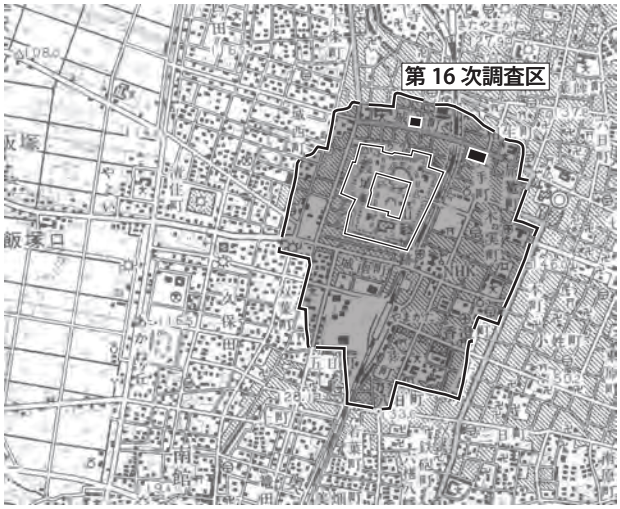
羽黒神社西遺跡の2度にわたる発掘調査によって、当該地点に縄文時代（早・前・中・晩）、古墳時代、平安時代にわたるヒトびとの活動痕跡が残されていることが明らかとなった。とくに、縄文時代中期・大木8b式段階の遺構・遺物が濃密に残されており、フラスコ状土坑の構築・埋め立ての過程が判明した事例は、全国的にも例を見ない。また、縄文中期の資料は、当時の生活像を考察するうえで、本遺跡は好適であり、今後の整理作業において追究していくこととなる。なお、第1次調査で採取された炭化したクリの子葉の炭素14年代測定では、4375±20yrBP、暦年較正で4962～4879calBP、つまり約4900年前の年代値が得られている。

また、縄文時代早期の土器片についても、県内で数が少なく、とくに押型文土器は、県内でも比較的にまとまった事例となる。

第2次調査では、平安時代と考えられる土坑墓が確認された。本遺跡の500m圏内に位置する清水遺跡1・2・3では、同時期の集落跡がセンターの発掘調査で確認されており、平安時代に河島山丘陵において集落域と墓域とに別れて展開していた可能性がうかがわれる。

山形城三の丸跡（第 16 次）

遺跡番号　201-003
調査次数　第 16 次
所在地　山形県山形市城北町・大手町
北緯・東経　38 度 15 分 28 秒・140 度 20 分 6 秒
調査委託者　国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
起因事業　一般国道 112 号霞城改良事業
調査面積　1,400 ㎡
受託期間　平成 27 年 4 月 9 日～平成 28 年 3 月 31 日
現地調査　平成 27 年 6 月 5 日～ 12 月 4 日
調査担当者　小林圭一（現場責任者）・菊池玄輝・高木茜・木村恵理
調査協力　山形市上下水道部・山形市教育委員会・山形県教育庁村山教育事務所
遺跡種別　集落跡・城館跡
時代　奈良時代・平安時代・中世・近世
遺構　溝跡・土坑・柱穴・井戸跡・河川跡
遺物　土師器・須恵器・陶磁器・金属器・瓦・銭貨　（文化財認定箱数：71 箱）



遺跡位置図（1：50,000）

調査の概要

山形城三の丸跡は、霞城公園のある山形城（本丸・二の丸）を取り囲む東西約 1.6 ㎞、南北約 2 ㎞の広大な城館跡で、文禄・慶長年間（1592 ～ 1615 年）に最上氏第 11 代当主の最上義光が、三重の堀を構えた城郭として整備したとされている。国内では 5 番目の広さで、奥羽地方では最大の城であった。しかし最上氏は元和 8 年（1622 年）に第 13 代義俊が改易され、それ以降鳥居氏から水野氏まで藩主が転封・入部を繰り返し、石高も 57 万石から 5 万石まで削減された。その結果、広大な山形城を維持することが困難となり、手入れが行き届かず、幕末期の水野氏 5 万石時代には三の丸のほとんどが水田や畑になっていたと言われている。

今回の発掘調査は、国道 112 号の拡幅工事に起因し、平成 23 年度の第 9 次調査、24 年度の第 11 次調査、25 年度の第 13 次調査、26 年度の第 14 次調査に続いて実施されたものである。国道 112 号に沿った区域を、市街地の区画毎に 2 箇所の調査区（M・P 区）に分けて調査を実施した。

遺構と遺物

今回の調査では、奈良・平安時代から近世・近代まで、各時代の遺構や遺物が検出され、人々がこの地に長い期間にわたって暮らしてきた様子が判明した。

遺構が最も多く検出されたのは、P 区とした大手町交差点近くの調査区で、近世の井戸跡と思われる石組み施設や水路、道路跡などが検出された。またさらにその下からは、奈良時代の竪穴住居跡も見つかった。一辺が 8 m程の方形の大型住居跡で、煮炊き用のカマドも検出された。また城北町のM区では石を組んだ井戸跡や焼けた獣骨を入れた土坑などが検出された。

遺物としては、近世の陶磁器類や瓦類が多く出土した

が、中には最上氏時代（16 世紀末～ 17 世紀初頭）の瀬戸・美濃や唐津で焼かれた陶器類も含まれており、江戸時代中頃～幕末にかけての陶磁器や瓦類が多く出土した。またM・P区では、８世紀前半に位置づけられる土師器等も多く出土した。

まとめ

江戸時代には武家屋敷となっていた三の丸一帯は、古代から既にある程度の規模の集落が存在しており、そうした集落を基盤にして城下町が形成され、近代の山形市街地の発展につながったと考えられる。今回調査した三の丸の北側では、最上氏時代の 16 世紀末～ 17 世紀の遺物が比較的多く出土したことから、この地域が比較的古い時期に田畑となったため、後世の開発があまり進まなかったと考えられる。また土砂が厚く滞積したため、遺構や遺物が良好な状態で残存したと推定される。三の丸の範囲内でも、場所によって後世の土地利用に差異があったことを示すものであろう。

写真１　P-1 区全景

写真２　P-1 区道路状遺構調査状況

写真３　P-1 区竪穴住居跡（古代）調査状況

写真４　P-1 区竪穴住居跡カマド調査状況

写真５　M-3 区土坑瓦出土状況

写真６　M-1 区石組み井戸跡調査状況

図１　調査区概要図（S=1:2500）

図２　Ｐ－１区遺構配置図（S=1:100）

山形城三の丸跡（第 17 次）

遺跡番号　201-003
調査次数　第 17 次
所在地　山形県山形市旅篭町
北緯・東経　38 度 42 分 02 秒・140 度 56 分 02 秒
調査委託者　山形県村山総合支庁建設部都市計画課
起因事業　山形広域都市計画道路事業 3・2・5 号旅篭町八日町線（山形市七日町地内）
調査面積　1,339 ㎡
受託期間　平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日
現地調査　平成 27 年 5 月 25 日～ 11 月 12 日
調査当者　齋藤健（現場責任者）・板橋龍・阿部明彦
調査協力　山形市教育委員会、山形県教育庁村山教育事務所
遺跡種別　城館跡
時代　中世・近世
遺構　溝跡・土坑・柱穴・竪穴建物跡
遺物　土師器・須恵器・陶磁器・金属器・石製品・木製品　（文化財認定箱数：54 箱）

遺跡位置図（1：50,000）

調査の概要

山形城は、馬見ヶ崎川扇状地に 14 世紀後半に最上氏の始祖斯波兼頼により築かれたとされ、代々最上氏が居城としてきた。17 世紀初頭には、最上義光により 57 万石の大名の居城として相応しい規模の近世城郭として三の丸まで拡張され、現在の山形市街地の原型となった。

しかし、義光の死後に発生した御家騒動により最上氏は改易される。その後入封した鳥居氏は馬見ヶ崎川の流路変更工事や山形五堰の整備、二ノ丸の大規模な改修を行い、現在の姿が完成された。

17 世紀末以降山形藩は藩主が短期間のうちに度々変わり石高も徐々に減る。このことから、広大な城の維持は困難となり荒廃する。18 世紀後半の秋元氏入封時には、本丸は更地となり二の丸内も小規模な建物が散見するだけで、藩主の屋敷は二の丸大手門の外に置かれた。藩士の住居も三の丸東半分にまとめられ、三の丸の大部分は農地となった。城郭の衰退に反比例し、城下町は紅花をはじめとする特産品を扱う富裕な商人が集住していたことや出羽三山参詣の拠点として大いに栄える。

山形城三の丸には 11 の口 (門) があった。現在の済生館病院東側にあった七日町口は大手門として扱われた。七日町口内から二の丸大門までの道沿いには、18 世紀前半までは重臣の屋敷が立ち並び、幕末の水野時代でも家臣の屋敷が道沿いに立ち並んでいた。

明治維新により山形城は廃城となり、三の丸の堀や土塁の多くは撤去され、三の丸内にも庶民が住居を構え市街地化が進み、三の丸七日町口大手門跡には済生館病院が建設された。それに伴い、新道を建設する新しい都市計画も実施される。今回の調査起因事業である旅篭町八日町線も、この時期に作られた道路である。

しかし、モータリゼーションの発達により交通量が増大し、市街地での交通の停滞や事故の危険性が指摘され

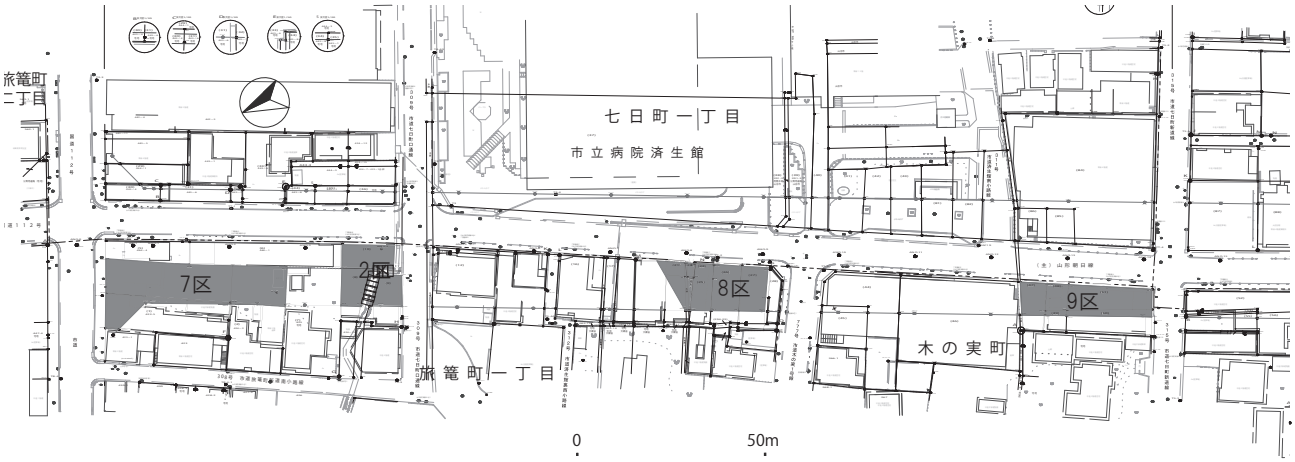


図1　調査区概要図

写真1　2区堀跡南西断面（東から）

写真2　2区堀跡精査作業（北から）

るようになる。そのため、幹線街路の利便性を高めるために山形広域都市計画道路事業が計画され、その一環として旅篭町八日町線を拡幅することとなり、三の丸跡の発掘調査を実施した。事業区の内、昨年度は1,873㎡、今年度は1,339㎡で現地調査した。残りについては次年度以降、引き続き調査を行う。

遺構と遺物

今年度は、北から7、2、8、9区の4つの地区を調査した。7区は三の丸外の町家地区であり、2区が三の丸の堀跡で、5、8、9区が三の丸内部の武家屋敷地区である。

2区は昨年度も調査を試みたが、堅牢な建物基礎が残っていたこともあり十分な調査を行えなかった。そのため、本年度あらためて基礎を取り除いて調査を実施した。2区は現在の御殿堰（ごてんぜき）で二分されており、地元の人の話では、この地区の御殿堰は堀跡のほぼ中央に埋め立て時に作られたという。調査で、その伝承が正しかったことが証明された。御殿堰で二分された片側の調査区では堀の南岸（写真1左部分）を確認できた。北岸については、建物の基礎工事で撹乱されて確認できなかった。堀の幅は15mほど、深さは2mほどである。堀底からは19世紀前半頃を中心とした波佐見（はさみ）産磁器片や将棋の駒などが出土した。堀は明治になって土塁を崩して埋め戻されている。

7区からは約4m四方の竪穴建物が1基検出された。棟持柱を持ち床面には焼土や炭化物が検出されたが、燃焼施設や年代を決定できる遺物は出土しなかった。また、19世紀前半頃とみられる波佐見産磁器片が出土した土坑からは、文字や絵画が線刻された砥石が出土した。

8区は、昨年度の5区の残りと合わせて調査を行った。昨年度検出した幅4m、深さ1mほどの南北方向の大型区画溝の続きを確認できた。溝は途切れており、突き当りは丸い川原石が積まれて護岸されていた。西方向には屈曲しないが、東方向は近代の撹乱により確認できなかった。溝からは五輪塔の空風輪（くうふうりん）が出土した。また、東西方向に並行する幅40cm、深さ20cmほどの道路跡の可能性が高い区画溝2本を検出した。さらに、7区で検出したものと同様の竪穴建物跡を2基確認した。1基は7区の竪穴建物とほぼ同規模だったが、もう1基は東西

写真３　２区堀跡完掘状況（南から）

写真４　７区竪穴建物跡完堀状況（北から）

写真５　７区出土線刻砥石

方向に二倍ほど細長く、炭化物の集中部分が東側と中央部の２箇所にあった。また、他にも鉄滓（てっさい）や鞴（ふいご）の破片が出土する深い土坑も確認できた。

９区は建物の基礎工事で深く撹乱を受けており、遺構の残存状況は良くなかった。現在の土地境界の下から、近世の区画溝が検出された。また、火葬骨を埋葬した木棺墓も検出されたが、遺物は出土しなかった。

まとめ

今年度の調査は昨年度に引き続き２、５区の一部、7、8、９区に対して実施した。

２区は三の丸の堀跡で、南岸面と底面を確認することは出来たが、北岸面の確認はできなかった。堀底からは江戸時代後期の遺物が出土し、明治以降に埋め戻されたことも確認できた。また、堀跡は幅 14 m、深さ２m ほどとそれほど大規模なものではなかった。当センターが平成 24 年に実施した横町口と十日町口に近い第 10 次調査では、深さ 8m ほどであったが、山形市教委が平成 20 年に市立第七小学校敷地で実施した調査では、今回とほぼ同規模の堀跡が確認されている。このことにより、三の丸の堀は門周辺は深く広く作られ、その他の部分では 2m ほどしかなかった可能性があるといえよう。

三の丸外の７区からは竪穴建物が１基検出された。似たような竪穴建物は８区でも検出されている。遺物を伴わないことから決定的な年代は断言できないが、古代のものとは覆土の状態や柱位置、趣きが異なるので、中世の可能性が高い。

三の丸内部の８区からは、昨年度検出された南北方向の大型区画溝の延長が検出され、突き当りには石組みがあった。年代については、昨年度の年報では 18 世紀ごろと示唆したが、山形市教委が実施した双葉町遺跡で三の丸構築以前とみられる大型区画溝との近似性を指摘され、同時期である可能性が高くなった。また、道路遺構と思われる東西方向に平行する区画溝２本を検出した。最上期初期には、三の丸七日町口と二の丸東門が直線道路で結ばれており、その道路の可能性もあり、今後絵図面や位置関係から慎重に検討を進める。

９区からは時期不明の火葬墓が検出されている。

残りの 10、11、12 区については、来年度以降調査を行い、昨年度と今年度の調査結果と合わせて整理作業を進めて報告書にまとめる。

写真６　８区道路遺構検出状況（北東から）

写真７　８区大型画溝完掘状況（北から）

写真８　８区大型区画溝出土五輪塔空風輪

写真９　８区竪穴建物跡完掘状況（東から）

写真 10　８区竪穴建物跡完掘状況（東から）

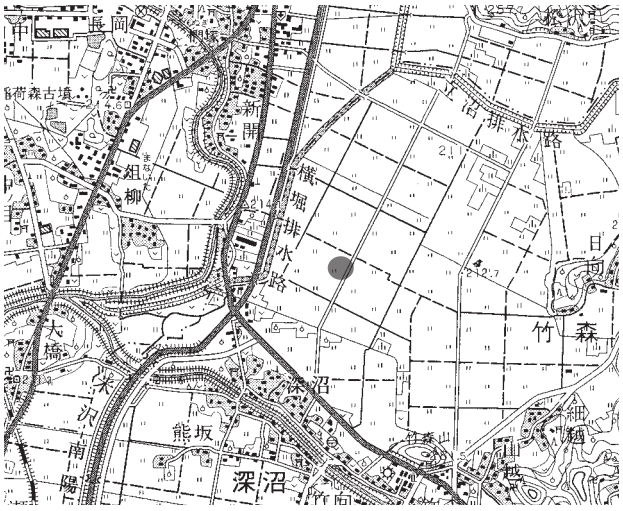
写真 11　９区作業状況（北から）

写真 12　９区土地区画溝検出状況（東から）

写真 13　９区火葬墓検出状況（北から）

押出遺跡（第６次）

遺跡番号　381-313
調査次数　第６次
所在地　山形県東置賜郡高畠町大字深沼字押出
北緯・東経　38 度 1 分 44 秒・140 度 10 分 16 秒
調査委託者　東日本高速道路株式会社　東北支社　山形工事事務所
起因事業　東北中央道（南陽高畠～山形上山）に係る付替え水路工事
調査面積　125 ㎡
受託期間　平成 27 年 10 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日
現地調査　平成 27 年 11 月 2 日～ 12 月 25 日
調査担当者　水戸部秀樹（現場責任者）・岩崎恒平
調査協力　高畠町教育委員会
遺跡種別　集落跡
時　　代　縄文時代
遺　　構　盛土遺構
遺　　物　縄文土器・彩漆土器・石器・木製品・漆塗り糸・種子（文化財認定箱数：630 箱）



遺跡位置図（1：50,000）

調査の概要

押出遺跡は、「大谷地」と呼ばれる泥炭層が広がる湿地の中に位置している。火山性の陥没地形が湖沼化し、後に湿地となったものであり、その名残が大谷地の北側に残る白竜湖（はくりゅうこ）である。現在は乾田となり、機械化された農作業が行われているが、昭和 30 年代頃までは舟を使って刈った稲を運搬する姿が見られたほど軟弱な土地であった。

遺跡の発見は、1969・1970 年に行われた沼尻堀排水路の浚渫工事で排出された土砂から、土器や石器が拾い上げられたことが契機となった。1985 年からは国道 13 号南陽バイパス建設工事を起因とした３ヵ年に及ぶ発掘調査が行われ、地表下約 2.5m の地点から住居跡 39 棟、集石遺構 1 基が検出された（図 1）。中には「転（ころ）ばし根太（ねだ）」と呼ばれる横に並べた丸太材を基礎として盛土を構築するという特殊な住居群も含まれる。また、通常の遺跡では残りにくい有機質遺物、彩漆（さいしつ）土器、木胎（もくたい）漆器などの貴重な遺物も出土した。後に主要な遺物約 1,100 点が国の重要文化財に指定されており、高畠町にある山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館で展示している。

2011 年からは沼尻堀排水路の改修工事を起因として、２ヵ年にわたる発掘調査を行った。第 4 次調査では、4 基の盛土遺構が検出され、1 ～ 3 次調査で検出された遺構群がさらに東側へ広がることが確認された（図 1）。第 5 次調査では、調査区一帯に遺物の廃棄された窪地が検出され、盛土遺構群の広がりが第 4 次調査区より東側までは続かないことが確認された。また、東へ拡張した調査区からは径の大きい木材を利用した打ち込み柱群が検出された。出土した遺物は、第 1 ～ 3 次調査のものとほぼ同じ内容で、土器・石器のほか彩漆土器、木製品、縄などである。

今年度行った第 6 次調査は、東北中央自動車建設に伴う付替え水路工事に起因して行われた。これまでの調査区

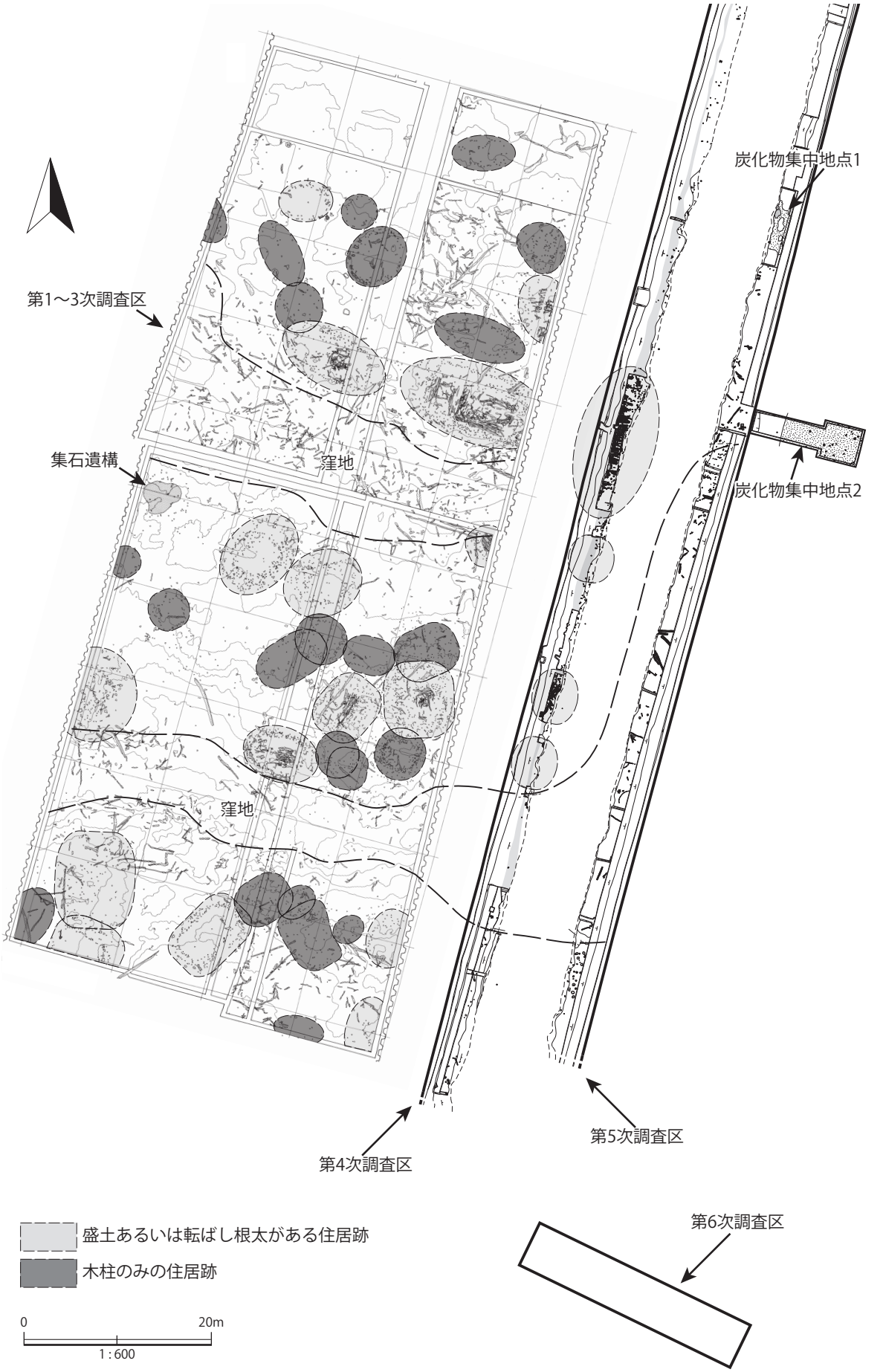


図 1　第 1 〜 6 次調査遺構配置図

写真 1　盛土遺構上遺物出土状況，東から

写真 2　盛土遺構断面，北東から

基は、盛土遺構どうしの間に粘質土が積み増しされて結合していた。2 基の盛土遺構が結合して、最終的に一つの盛土遺構として使用されたと考えられる。結合した盛土遺構のうち、東側の盛土遺構は砂を、西側の盛土遺構は粘土を基層としてその上に粘質土を盛っている（写真 2）。

盛土上面に残された多数の遺物は、当時の人々がこの地を去った状況がそのまま残置されたものと考えられる。遺物は、盛土の中央部に比べ、周辺部から多く出土しており、盛土の中央部から周囲に向かって土器や石器などを廃棄した様子がうかがえる。

盛土を除去すると、多数の打ち込まれた杭（柱）が盛土の周縁部分から検出された（写真 3）。調査区内では 100 本程度検出されているが柱の径、打ち込まれた深さも一定ではない。浅いものでは 20cm 程度、深いものは 2m 程度に達し、大きく傾いているものも多い。地上部分が腐朽して残っていない状態の柱痕、あるいは盛土の流失を防ぐ土留め用の杭と考えられている（写真 4）。

盛土上には、炉跡や柱穴などの建物の痕跡とかんがえられる遺構は確認できなかった。

写真 3　盛土除去後の杭（柱）などの検出状況，北東から

写真 4　打ち込まれた杭（柱），東から

の中では最も南よりの位置（図 1）であり、集落全体の構造を考える上で重要な調査となる。

遺構と遺物

遺構は、盛土遺構が 3 基検出された（写真 1）。うち 2

出土した土器は、東北地方南部の土器型式である大木 4 式（写真 5）に属するものが多く、北陸地方の刈羽（かりわ）式土器とされている土器も少量含まれる。石器（写真 6）では、石鏃、石鏃未製品、押出型ポイント、石匙、磨石、石皿

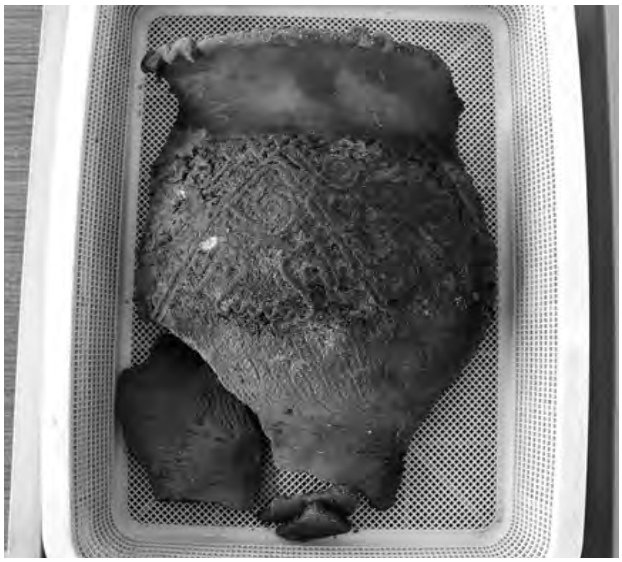


写真 5　大木 4 式土器

写真 6　石器（左上：石鏃，左下：石鏃未製品，
中央・右：押出型ポイント）

などが出土している。また、盛土上で石器の製作を行ったらしく、大量の剥片、微細剥片が出土した。

これまでの押出遺跡の発掘調査で出土した彩漆土器はいずれも鉢形ばかりであったが、今回の調査では壺形のものが初めて出土した（写真 7 ～ 9）。文様はこれまでと同じく赤漆の下地に黒漆により斜線や渦巻きを描くものである。また、口縁部には連続した貫通孔が水平に並んで空けられている。さらに上方から見た形は角丸方形（すみまる）となっており、非常に独自性の高い器形と言える。

漆に関するものとしては、塗の容器や漆塗り糸（写真 10）なども出土している。漆塗り糸は、赤漆を塗った糸であるが、漆膜のみが残っており内部の糸はなかった。糸は直線状であり、元来玉状にまとめられていたかどうかは分からない。

地山面から約 1,5 m掘り下げたところ、縄文早期末に属する縄文条痕文系土器（写真 11）や石器、炭化物などが出土した。遺物は粗砂層に含まれており、河川の氾濫により遺跡内に運ばれたものと考えられる。

写真 7　壺形彩漆土器

写真 8　出土状況

写真 9　上から

写真 10　漆塗り糸

写真 11　下層出土の土器

まとめ

今回の調査区で見つかったのは盛土遺構の北半分程度であり、さらに南側へ向かって盛土遺構をはじめとした遺跡の範囲は広がることが分った。湿地の西側には第 1 ～ 4 次調査で検出された遺構群、南側には第 6 次調査で検出された盛土遺構が配置されている。今後は、湿地の縁辺部でどのような生活が営まれていたのか、出土遺物や調査記録から詳しく検討していく予定である。

馳上（はせがみ）遺跡（第７次）

遺跡番号　202-560
調査次数　第７次
所在地　山形県米沢市大字川井字元立 1019 - 1 他
北緯・東経　37 度 55 分 21 秒・140 度 8 分 13 秒
調査委託者　米沢市産業部商工課
　　山形県置賜総合支庁建設部道路計画課
起因事業　米沢市新道の駅よねざわ整備事業
　　主要地方道米沢高畠線　道の駅（川井）工区
調査面積　680 ㎡
受託期間　平成 27 年 10 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日
現地調査　平成 27 年 11 月 2 日～ 20 日
調査担当者　須賀井新人（現場責任者）・阿部明彦
調査協力　米沢市総務部財政課・米沢市建設部土木課・米沢市建設部都市計画課
　　米沢市教育委員会・山形県県土整備部道路整備課・置賜教育事務所
遺跡種別　集落跡
時代　古墳時代・奈良時代・平安時代・中世
遺構　竪穴住居跡・土坑・溝跡・柱穴
遺物　縄文土器・土師器・須恵器 (文化財認定箱数：1 箱)

遺跡位置図（1：50,000）

調査の概要

馳上遺跡はこれまで、主要地方道や東北中央道の建設を原因とした発掘調査が都合６次に亘って行われ、延べ 35,200 ㎡が対象となった。今回の調査は、東北中央道のインターチェンジに隣接し、高速道から直接乗り入れが可能な道の駅整備事業に起因したものである。平成 28 年度に本格的な発掘調査を行うに当たり、21,600 ㎡の広範な事業範囲の遺構・遺物の有無や分布密度、遺構検出面までの深さ等を把握する目的から実施した予備的な発掘調査である。

調査方法は、事業区内に 10 × 2 mのトレンチ 30 本を公共座標に沿って設定し、各トレンチにおける遺構・遺物の所在を確認した。遺構は検出段階に留め、包含層や検出面から出土した遺物の採取を行った。検出遺構の平面図と、表土から検出面までの断面図を作図し、順次写真撮影を行って記録した。

遺構と遺物

東西約 270 mに及ぶ事業区は、南北方向の農道と用水路により３区画に分けられる。東側区域は一部を除けば湿地状の泥炭質土もしくは砂礫層地帯であり、遺構・遺物とも確認されなかった。ただし、№３トレンチにおいて表土下に遺物包含層が残存し、古墳時代の土師器が数個体出土した。このことから、包含層と遺物分布の広がりを探るためのトレンチ４本を追加して調査した結果、事業区内で約 1,000 ㎡の範囲に及ぶことが確認された。特に№ 31・33 トレンチからは縄文土器深鉢が押し潰された状態で出土しており、以前の調査で検出されなかった当該期の遺構の存在も期待される。

用水路以西では一転して遺構や遺物の分布が顕著となる。遺構は未確認ながら、厚さ 30 ㎝前後の遺物包含層が堆積している事例や、表土直下の安定した地山層に溝跡や柱穴等が密集する事例が確認された。地山までの深さから旧地形が窺われ、遺構の密集域は元来、周辺に比べて高燥であったことが考えられる。堆積層から旧河道の存在も明らかになり、河岸段丘上の微高地を利用して集落が営まれ、遺跡が機能していた時期はかなり起伏に

富んだ地形であったものと思われる。

まとめ

今回の調査は来年度の本格的な発掘調査に先立ち、遺跡範囲の確認を主とした予備的調査として実施した。その結果、地盤のしっかりした事業区の西側ほど遺構や遺物の分布が多く見られ、遺跡は地形的に安定した場所へ立地したと言える。また、事業区東端の一部でも遺物包含層の堆積が確認された。

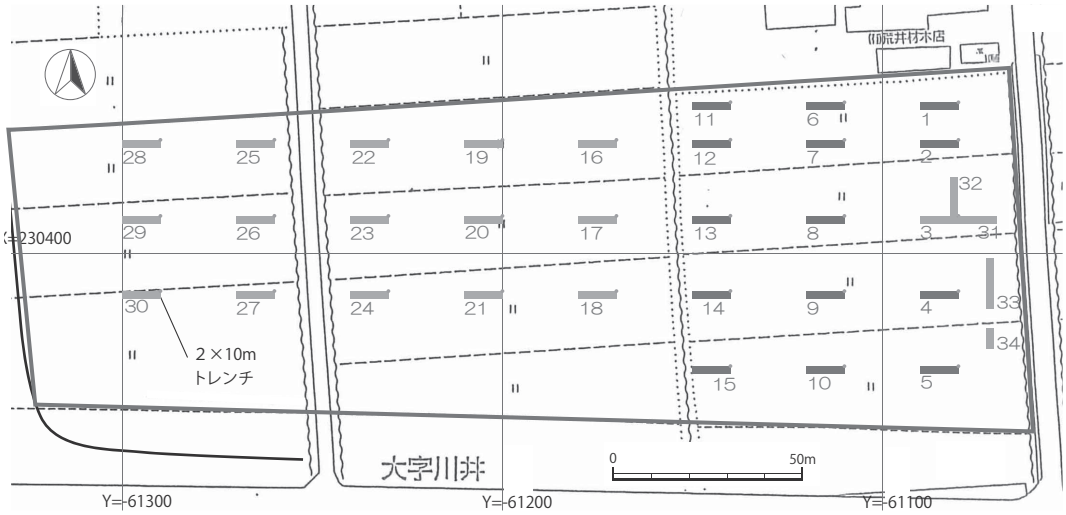


図1　調査区概要図

写真1　調査風景（南東から）

写真2　No.27 トレンチ遺構検出状況　（東から）

写真3　No.33 トレンチ出土縄文土器

写真4　No.21 トレンチ土器出土状況　（東から）

２．普及・啓発・研究等業務

（１）研修等

①全国埋蔵文化財法人連絡協議会事業への派遣

ア　第１回役員会

期　　日　　平成２７年５月７日～５月８日
会　　場　　京都府京都市（ホテルルビノ京都堀川）
派 遣 職 員　　総務課長　黒坂雅人、整理課長　伊藤邦弘

イ　総会

期　　日　　平成２７年６月１８日～６月１９日
会　　場　　長野県長野市（ホテルメトロポリタン長野）
派 遣 職 員　　専務理事　三浦秋夫、主任調査研究員　草野潤平

ウ　ブロック活動

北海道・東北地区会議

期　　日　　平成２７年１０月２２日～１０月２３日
会　　場　　岩手県奥州市（水沢グランドホテル）
派 遣 職 員　　専務理事　三浦秋夫、総務課長　黒坂雅人、事務員　渡邉睦子

エ　第２回役員会

期　　日　　平成２７年１２月３日～１２月４日
会　　場　　東京都千代田区丸の内（丸ビルホール＆コンファレンススクェア）
派 遣 職 員　　専務理事　三浦秋夫、総務課長　黒坂雅人

オ　研修会

期　　日　　平成２７年１２月１０日～１２月１１日
会　　場　　広島県広島市（広島国際会議場）
派 遣 職 員　　調査課課長補佐　須賀井新人、主任調査研究員　髙桑　登

②埋蔵文化財担当者専門研修への派遣

ア　文化財写真課程

期　　日　　平成２７年１２月８日～１２月１８日
会　　場　　奈良文化財研究所
派 遣 職 員　　主任調査研究員　天本昌希

イ　文化財担当者特別研修「埋蔵文化財デジタル写真研修」

期　　日　　平成２８年３月８日～３月１１日
会　　場　　奈良文化財研究所
派 遣 職 員　　主任調査研究員　草野潤平

（２）普及啓発

①普及啓発事業実行委員

県教育庁文化財・生涯学習課（埋蔵文化財センター駐在）					
センター公開事業			ふるさと考古学講座		研修講座
子ども ミュージアム	センター 参観デー	発掘調査 速報会	凹石の秘密を さぐろう！	歴史遺産 ウォーキング	市町村文化財 担当者研修
氏家信行	齊藤主税	髙桑　登	渡邉安奈	草野潤平	渡辺和行
山田めぐみ	氏家信行	菅原哲文	小林圭一	齋藤　健	水戸部秀樹
渡邉安奈	天本昌希	高木　茜	原田英明	菊池玄輝	山田めぐみ
(向田明夫)	五十嵐萌	森谷康平	大場正善	岩崎恒平	阿部明彦
	後藤枝里子	安達将行		木村恵理	
	安部将平				
	板橋　龍				

②センター公開事業

ア　「子どもミュージアム」

やまがたアートライン推進事業の、「夏休み子どもミュージアムめぐり」協賛事業として実施。山形県内の遺跡から見つかった出土品を、児童・生徒の夏季休業中に展示した。

期間　平成２７年7月２１日（火）～8月２１日（金）
会場　山形県埋蔵文化財センター
内容　展示：「土器(ドキ)ッとタイムトラベラー」
　　体験：火起こし、ミュージアムで絵を描こう､等
入場者数　８９名

イ　山形県埋蔵文化財センター参観デー　「やまがた埋文まつり２０１５」

『東北文化の日』協賛事業として実施。センターを会場に、日ごろの業務の様子を再現したり、考古学の面白さを体験を通して紹介したりした。

期日　平成２７年１０月１８日（日）
会場　山形県埋蔵文化財センター
内容　考古学体験：整理作業体験、特別展示見学、石器製作実演
　　体験コーナー：勾玉作り、弓矢体験、等
入場者数　３３８名

整理作業体験

特別展示

勾玉作り体験

弓矢体験

れきし仮装写真館

スタンプラリー

ウ　平成２７年度発掘調査速報会　「発掘やまがた最前線２０１５」

センターが平成２７年度に発掘調査を行った遺跡の内、４遺跡５件の調査成果と、山形市教育委員会による山形城関連の発掘調査の報告を行った。

期日　平成２８年2月２８日（日）
会場　山形県生涯学習センター　遊学館
内容　調査の状況をプロジェクターを使って紹介し、併せて出土品の展示・解説を実施した。
入場者数　１９６名

調査遺跡の発表

山形市教育委員会の報告

出土品の展示・解説

③ふるさと考古学講座

ア　凹(くぼみ)石の秘密をさぐろう！　～よみがえる縄文時代のわざ～

期日　平成２７年８月２日（日）

会場　山形県埋蔵文化財センター

内容　縄文の遺跡から発掘される凹石を実際に作ってみて、その作製方法や使われ方を探る。

参加者数　１４名

イ　歴史遺産ウォーキング　～山形城ぶらり旅～

期日　平成２７年９月２７日（日）

会場　山形市霞城公園、山形城三の丸跡第16・17次調査現場、最上義光歴史館　他

内容　復元の進む山形城跡や関連する施設・発掘中の調査現場を歩いて巡る。

参加者数　３０名

錦町・三の丸土塁跡

最上義光歴史館

三の丸跡発掘体験

④研修講座

市町村埋蔵文化財担当者研修

期日　平成２７年５月１５日（金）・６月１２日（金）

会場　山形県埋蔵文化財センター・羽黒神社西遺跡（本年度発掘調査現場）

内容　発掘現場における実地研修を通して、市町村文化財担当者の埋蔵文化財に関する理解を深めると共に、発掘調査技術の向上を図る。

参加者数　延べ５９名

センターにて座学

土層断面の観察

現場での写真記録方法

⑤外部展示

特別テーマ展『災害と祈り』

期　　日　平成２７年６月６日～８月５日

会　　場　山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館（休館日　毎週月曜日及び国民の祝日）

内　　容　「下大曽根遺跡」「藤治屋敷遺跡」等の発掘調査で明らかになった過去の災害の痕跡を紹介し、現代に暮らす私たちの生活安全を考える。
（下大曽根遺跡、藤治屋敷遺跡等で確認された災害関連の遺物及び解説パネルの展示）

「最上のあけぼの」　釜淵Ｃ遺跡　～真室川が育んだ縄文集落～

期　　日　平成２７年９月４日～１０月２日

会　　場　最上広域交流センター「ゆめりあ」ストリートギャラリー（年中無休）

内　　容　真室川町の代表的な遺跡である「釜淵Ｃ遺跡」の出土資料を紹介し、地域の遺跡への理解を深めてもらう。
（縄文時代の土器、土製品、石器、石製品、遺跡及び遺物解説パネルの展示）

「足元には文化財展」、体験講座

期　　日　平成２７年１０月２３日～１１月１５日

会　　場　鶴岡市朝日中央コミュニティセンター「すまいる」（休館日　年末年始）

内　　容　旧朝日村（現鶴岡市）の遺跡である「野新田遺跡」「中台遺跡」「栗山遺跡」から出土した資料と、併せて西ノ前遺跡出土の「縄文の女神（レプリカ）」を紹介し、地域の遺跡への理解を深めてもらう。
（各遺跡から出土した縄文時代の遺物、遺跡及び遺物解説パネルの展示と、併せて、展示解説・縄文食体験を実施）

「やまがた縄文文化」

期　　日　平成２８年２月１９日～３月４日

会　　場　遊学館　１階ギャラリー（休館日　毎週月曜日、毎月第3日曜日）

内　　容　県内の代表的な縄文遺跡である「西海渕遺跡」「押出遺跡」「作野遺跡」から出土した資料を紹介し、県内の遺跡への理解を深めてもらう。
（各遺跡から出土した縄文時代の遺物、及び、遺構・遺物解説パネルの展示）

うきたむ風土記の丘考古資料館

新庄市ゆめりあストリートギャラリー

鶴岡市朝日中央コミュニティセンターすまいる

山形市遊学館　１Ｆギャラリー

⑥学校への協力

No.	派遣校・依頼者名	派遣職員名		実施日	実　施　内　容
1	村山市立大久保小学校 校長　武田　信喜	氏家信行	山田めぐみ	2015年 4月16日	6年社会科：講話「大昔の人々のくらし」 土器や石器に触れてみよう、石器体験
2	山形市立第六小学校 校長　椎名　和美	向田明夫 菅原哲文	渡邉安奈	2015年 4月17日	6年社会科：講話「大昔の人々のくらし」 土器や石器に触れてみよう、クルミ割り・石器体験
3	山形市立出羽小学校 校長　石塚　直樹	山田めぐみ 安部将平	渡辺和行	2015年 4月20日	6年社会科：講話「大昔の人々のくらし」 土器や石器に触れてみよう、石器・火起こし・弓矢体験
4	村山市立冨本小学校 校長　柏倉　泰樹	向田明夫	氏家信行	2015年 4月22日	6年社会科：講話「大昔の人々のくらし」 土器や石器に触れてみよう、石器・縄文食体験
5	上山市立西郷第一小学校 校長　岡村　廣	渡邉安奈	小林圭一	2015年 4月23日	6年社会科：講話「大昔の人々のくらし」 土器や石器に触れてみよう、弓矢・縄文食体験
6	河北町立溝延小学校 校長　板坂　明志	山田めぐみ	齋藤　健	2015年 4月24日	6年社会科：講話「大昔の人々のくらし」 土器や石器に触れてみよう、石器・火起こし・弓矢体験
7	寒河江市立南部小学校 校長　武田　幸一	氏家信行 五十嵐萌	齋藤　健	2015年 4月28日	6年社会科：講話「大昔の人々のくらし」 土器や石器に触れてみよう、火起こし・弓矢体験
8	鶴岡市立羽黒第一小学校 校長　佐藤　雅秀	向田明夫	菊池玄輝	2015年 4月30日	5・6年社会科：講話「大昔の人々のくらし」 土器や石器に触れてみよう、縄文食体験
9	鶴岡市立栄小学校 校長　齋藤　祐子	渡邉安奈	阿部明彦	2015年 5月1日	5・6年社会科：講話「大昔の人々のくらし」 土器や石器に触れてみよう、火起こし・弓矢体験
10	鶴岡市立東栄小学校 校長　尾形圭一郎	山田めぐみ	岩崎恒平	2015年 5月7日	6年社会科：講話「大昔の人々のくらし」 土器や石器に触れてみよう、火起こし・弓矢体験
11	村山市立戸沢小学校 校長　結城　重敏	氏家信行	高木　茜	2015年 5月8日	6年社会科：講話「大昔の人々のくらし」 土器や石器に触れてみよう、火起こし・弓矢体験
12	山形市立西山形小学校 校長　長谷川義隆	向田明夫	板橋　龍	2015年 5月11日	6年社会科：講話「大昔の人々のくらし」 土器や石器に触れてみよう、火起こし・弓矢体験
13	酒田市立新堀小学校 校長　北脇　貴司	山田めぐみ	天本昌希	2015年 5月12日	6年社会科： 土器や石器に触れてみよう、縄文食・勾玉作り・弓矢体験
14	南陽市立宮内小学校 校長　星　俊之	向田明夫 木村恵理	草野潤平	2015年 5月13日	6年社会科：講話「大昔の人々のくらし」 土器や石器に触れてみよう、石器・縄文服・弓矢体験
15	鶴岡市立温海小学校 校長　生田　浩樹	渡邉安奈	髙桑　登	2015年 5月14日	6年社会科：講話「大昔の人々のくらし」 土器や石器に触れてみよう、火起こし・弓矢体験
16	鶴岡市立大山小学校 校長　富樫　均	氏家信行 五十嵐萌	後藤枝里子 板橋　龍	2015年 5月15日	6年社会科： 土器や石器に触れてみよう、火起こし・縄文食体験
17	酒田市立宮野浦小学校 校長　阿彦　裕光	向田明夫 齊藤主税	渡邉安奈 森谷康平	2015年 5月18日	6年社会科：講話「大昔の人々のくらし」 土器や石器に触れてみよう、火起こし・弓矢体験
18	天童市立長岡小学校 校長　山澤　勉	氏家信行 水戸部秀樹	山田めぐみ 草野潤平	2015年 5月19日	6年社会科： 土器や石器に触れてみよう、縄文食体験
19	東根市立東根中部小学校 校長　阿相　利幸	向田明夫 五十嵐萌	髙桑　登 岩崎恒平	2015年 5月20日	6年社会科：講話「大昔の人々のくらし」 土器や石器に触れてみよう、クルミ割り・火起こし・弓矢体験
20	大石田町立大石田北小学校 校長　本多　諭	氏家信行	後藤枝里子	2015年 5月21日	5・6年社会科：講話「大昔の人々のくらし」 土器や石器に触れてみよう、火起こし・弓矢体験
21	東根市立東根小学校 校長　元木　正史	向田明夫 天本昌希	渡邉安奈 森谷康平	2015年 5月25日	6年社会科：講話「大昔の人々のくらし」 土器や石器に触れてみよう、クルミ割り・石器体験
22	上山市立宮川小学校 校長　吉田　康之	山田めぐみ 後藤枝里子	草野潤平	2015年 5月26日	6年社会科：講話「大昔の人々のくらし」 土器や石器に触れてみよう、火起こし・弓矢体験
23	山形市立第一小学校 校長　髙橋　禎	氏家信行 五十嵐萌	髙桑　登	2015年 5月27日	6年社会科：講話「大昔の人々のくらし」 土器や石器に触れてみよう、クルミ割り・火起こし・弓矢体験
24	舟形町立舟形小学校 校長　渡辺　正	渡邉安奈 岩崎恒平	齊藤主税	2015年 5月28日	6年社会科：講話「大昔の人々のくらし」 土器や石器に触れてみよう、火起こし・弓矢体験
25	村山市立富並小学校 校長　片桐　章子	向田明夫	水戸部秀樹	2015年 5月29日	5・6年社会科：講話「大昔の人々のくらし」 土器や石器に触れてみよう、火起こし・弓矢体験
26	上山市立宮川中学校 校長　鈴木　正実	氏家信行 水戸部秀樹	山田めぐみ 後藤枝里子	2015年 6月25日	全学年社会科・職業教育：講話「センターの仕事」「上山の遺跡」 土器や石器に触れてみよう、火起こし・縄文食体験

⑦来所者

ア.見学・研修等

No.	来所者	期　日	人数	内　容
1	上山市立南小学校　5年生	2015年4月30日	109	施設見学、施設利用（講話）
2	山形市立蔵王第一中学校　２年生	2015年5月19～21日	5	職場体験
3	四条畷市立歴史民俗資料館	2015年5月26日	2	施設見学
4	東北大学大学院考古学研究室	2015年6月12日	27	施設見学
5	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	2015年6月16･19･24日	3	施設利用（職員研修）
6	霞城学園高等学校生涯学習講座	2015年6月30日	12	遺跡見学〈羽黒神社西遺跡〉
7	上山市立中学校　２年生	2015年7月7～9日	4	職場体験（キャリアスタートウィーク）
8	霞城学園高等学校生涯学習講座	2015年7月28日	11	施設見学、整理作業体験
9	山形県立山形聾学校　中学部２年生	2015年8月3･4日	1	職場体験
10	鷺畑山１号墳発掘調査会	2015年8月17日	3	施設利用（出土遺物の鑑定）
11	東北学院大学文学部	2015年8月19･20日	3	発掘調査実習〈羽黒神社西遺跡〉
12	ふたかみ史遊会	2015年9月4日	43	施設見学
13	長井・西置賜地域シルバー人材センター	2015年9月18日	18	施設見学、遺跡見学〈山形城三の丸跡〉
14	宮城県民	2015年10月1日	1	施設見学
15	埼玉県民	2015年10月7日	1	施設見学
16	南陽市シルバー人材センター	2015年10月8日	17	施設見学、遺跡見学〈山形城三の丸跡〉
17	山形県立米沢興譲館高等学校　1年生	2015年10月14日	30	施設見学、施設利用（ＳＳＨでの講義）
18	大阪大学文学部考古学研究室	2015年10月21日	28	施設見学
19	上山市立南小学校　２年生	2015年10月23日	88	施設見学、施設利用（スタンプラリー）
20	大蔵村立大蔵小学校　６年生	2015年10月23日	35	遺跡見学〈上竹野遺跡〉
21	仙台市富沢遺跡保存館	2015年10月29日	40	遺跡見学〈羽黒神社西遺跡〉
22	東北芸術工科大学歴史遺産学科	2015年11月2日～12月25日	1	発掘調査実習〈押出遺跡〉
23	上山市クアオルト健康講座	2015年11月17日	15	施設見学
24	南陽市教育委員会	2015年11月24･25日	3	施設利用（職員研修）
25	村山市民	2015年12月1日	2	施設見学
26	鶴岡市教育委員会	2016年2月25日	2	施設利用（出土遺物の鑑定）
27	天童市教育委員会	2016年2月25日	1	施設利用（出土遺物の鑑定）
28	寒河江市教育委員会	2016年2月26日	1	施設利用（出土遺物の鑑定）
29	北村山河川砂防課	2016年3月1日	11	施設見学
30	山形市民	2016年3月7日	1	施設見学

イ.図書閲覧

No.	来所者	期　日	閲覧目的
1	長井市教育委員会　職員	2015年6月12日	調査のため
2	上山市民	2015年6月25日	研究発表のため
3	奈良大学文学部文化財学科　学生	2015年8月24日	研究のため

ウ.資料調査

No.	来所者	期　日	対象遺跡
1	（公財）郡山市文化・学び振興公社 文化財調査研究センター　職員	2015年5月11日	蔵増押切遺跡、萩原遺跡、元屋敷遺跡
2	（公財）郡山市文化・学び振興公社 文化財調査研究センター　職員	2015年10月2日	植木場1遺跡、下柳Ａ遺跡、寝鹿遺跡、 助作遺跡、物見台遺跡、西沼田遺跡、 一ノ坪遺跡、南原遺跡、鎌倉上遺跡、 矢馳Ａ遺跡、渋江遺跡
3	東北大学大学院文学研究科考古学専攻分野 准教授	2015年10月22日	宮田Ｄ遺跡、宮田Ｆ遺跡、上ミ野Ａ遺跡、 白山Ａ遺跡、白山Ｂ遺跡、白山Ｄ遺跡、 山岸遺跡、山崎Ａ遺跡、山崎Ｂ遺跡、 山崎Ｄ遺跡
4	徳島県立博物館　職員	2015年10月23日	生石2遺跡
5	（公財）千葉県教育振興財団　職員	2015年10月28日	月山沢遺跡、宮ノ前遺跡、山居遺跡、 高瀬山遺跡、清水西遺跡、真室道遺跡、 小田島城跡、弓張平Ｏ遺跡
6	國學院大學栃木短期大学部　専任講師	2015年11月2日	砂子田遺跡
7	東北芸術工科大学　学生	2015年11月20日	宮下遺跡
8	千葉大学　助教	2015年11月27日	小林遺跡、小反遺跡、八ツ目久保遺跡、 山居遺跡、千野遺跡
9	福島大学　学生	2015年12月21日	矢馳Ａ遺跡、矢馳Ｂ遺跡、清水新田遺跡
10	山形市役所　職員	2016年1月21日	城南一丁目遺跡、山形城三の丸跡

⑧調査説明会

No.	市町村	遺跡名	開催日	遺跡種別	参加者数
1	大蔵村	上竹野遺跡	2015年8月8日	集落跡	50
2	村山市	羽黒神社西遺跡	2015年10月10日	集落跡	50
3	大蔵村	上竹野遺跡	2015年10月31日	集落跡	55
4	高畠町	押出遺跡	2015年11月23日	集落跡	35

⑨職員派遣等

No.	依頼者名	派遣場所	派遣職員名	期日	内　容
1	舟形町教育委員会	山形県庁　文化財・生涯学習課	齊藤主税	2015年 4月17日	西ノ前遺跡公園整備に伴う試掘調査打合せ
2	寒河江市教育委員会	寒河江市大字日和田字上宿	齊藤主税 阿部明彦	2015年 4月21～24日	寒河江市日和田遺跡試掘調査
3	舟形町教育委員会	西ノ前遺跡周辺	齊藤主税	2015年 5月11日	西ノ前遺跡試掘調査
4	舟形町文化財保護委員会 舟形町教育委員会	舟形町中央公民館	齊藤主税	2015年 5月18日	平成27年度舟形町文化財保護委員会及び歴史民俗資料館運営委員会　第1回委員会
5	山辺町文化財保護審議会	山辺町役場	黒坂雅人	2015年 5月27日	山辺町文化財保護審議会
6	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	大場正善	2015年 5月30日	「勾玉・弓矢・石器をつくろう！」
7	遊佐町教育委員会	鳥海温泉「遊楽里」	阿部明彦	2015年 6月1日	小山崎遺跡調査指導委員会
8	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	伊藤邦弘	2015年 6月6日	「特別テーマ展」の展示解説
9	山形県立博物館	山形県立博物館　講堂	菅原哲文	2015年 6月21日	プライム企画展　記念講演会
10	上山市立南小学校第3学年PTA	上山市立南小学校　体育館	黒坂雅人 氏家信行 渡邉安奈 五十嵐萌 向田明夫	2015年 6月28日	第3学年PTA親子研修会
11	舟形町教育委員会	西ノ前遺跡　猿羽根楯跡親杉	齊藤主税	2015年 7月1日	平成27年度国・県指定文化財巡回指導
12	山形県地域史研究協議会	置賜生涯学習プラザ	髙桑　登	2015年 7月12日	第41回総会・研究大会
13	村山市文化財保護審議会	村山市役所	阿部明彦	2015年 7月13日	村山市文化財保護審議会
14	奈良県香芝市二上山博物館	奈良県香芝市二上山博物館	阿部明彦	2015年 7月19・20日	ふたかみ邪馬台国シンポジウム15 「邪馬台国時代の“みちのく”と大和」
15	北村山地域史研究会	村山市民会館	菅原哲文	2015年 7月20日	「山形学」地域連携講座 「大地に刻まれた村山の歴史」講座
16	舟形町教育委員会	舟形町中央公民館　他	齊藤主税	2015年 7月21日	松井家（松橋）所有の仏像（秘仏）視察
17	舟形町教育委員会	舟形町中央公民館	黒坂雅人	2015年 8月1日	「縄文の女神」里帰り展開展式
18	第32回城郭研究者セミナー実行委員会	駒澤大学深沢キャンパス　アカデミーホール	髙桑　登	2015年 8月1・2日	第32回城郭研究者セミナー
19	舟形町教育委員会	舟形町中央公民館	黒坂雅人 阿部明彦	2015年 8月2日	国宝土偶シンポジウム
20	福島県立博物館	福島県立博物館　講堂	天本昌希	2015年 8月8日	発掘調査最前線１ ～派遣職員が見たふくしまの遺跡
21	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	大場正善	2015年 8月8日	「勾玉・弓矢・石器をつくろう！」
22	河北町教育委員会	河北町コミュニティセンター	氏家信行 山田めぐみ 向田明夫	2015年 8月9日	「べに花かほく体験隊」

No.	依頼者名	派遣場所	派遣職員名	期日	内　容
23	中山町教育委員会	中山町中央公民館	伊藤邦弘	2015年 8月10日	中山町文化財保護審議会
24	東根市教育委員会	東根市役所	阿部明彦	2015年 8月12日	東根市文化財保護審議会
25	西村山地域史研究会	寒河江市文化センター	小林圭一	2015年 8月29日	「山形学」地域連携講座『山形の歴史を学ぶ』「最上川中流域の縄文集落」
26	山形県教育委員会	山形県庁	髙桑弘美	2015年 9月4日	山形県文化財保護審議会
27	西村山地域史研究会	寒河江市文化センター	阿部明彦	2015年 9月5日	「山形学」地域連携講座『山形の歴史を学ぶ』「古代出羽国と最上川」
28	山形県シルバー人材センター連合会　長井・西置賜地区	長井市交流センターふらり・山形城三の丸跡	須賀井新人 向田明夫	2015年 9月17･18日	高齢者活躍人材育成事業「遺跡発掘講習」
29	長井市教育委員会	長井市教育委員会	菅原哲文	2015年 9月25日	長井市史編纂事業　第1回編集委員会
30	風の旅行社	山形県立博物館　他	阿部明彦	2015年 9月26･27日	国宝土偶「縄文の女神」のふるさとを訪ねて
31	環境教育工房LinX	鶴岡市自然学習交流館ほとりあ	大場正善	2015年 10月4日	昔の火起こしを探ろう！
32	舟形町教育委員会	舟形町中央公民館	齊藤主税	2015年 10月4日	縄文体験講座「西ノ前に暮らした縄文人の生活を体験しよう！！」
33	山形県シルバー人材センター連合会　南陽市地区	ワトワセンター南陽 山形城三の丸跡	須賀井新人 向田明夫	2015年 10月7･8日	高齢者活躍人材育成事業「遺跡発掘講習」
34	村山市文化財保護審議会	村山市役所	阿部明彦	2015年 10月8日	村山市文化財保護審議会　及び　村山市指定文化財の視察
35	山辺町文化財保護審議会	山辺町ふるさと資料館他	黒坂雅人	2015年 10月9日	山辺町文化財保護審議会　及び　山辺町指定文化財の視察
36	山形県立博物館	山形県立博物館　講堂	阿部明彦	2015年 10月17日	27年度考古学講座「やまがたの土偶」『山形の土偶』県内出土土偶の概要
37	舟形町教育委員会	東北古典彫刻修復研究所他	齊藤主税	2015年 10月22日	舟形町文化財保護委員会研修視察
38	（公財）石川県埋蔵文化財センター	石川県埋蔵文化財センター	髙桑　登	2015年 10月22～24日	環日本海文化交流史調査研究集会「中世前半における輸入陶磁器とその流通」
39	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	黒坂雅人 菅原哲文	2015年 10月25日	第17期考古学セミナー「縄文時代中期前葉から中葉の遺跡と遺物」
40	明治地区文化祭実行委員会	明治コミュニティセンター	向田明夫	2015年 10月31日	縄文時代の考古学体験
41	みどり市岩宿博物館	岩宿博物館・ふれあい学習館	大場正善	2015年 10月31日 ･11月1日	2015年度岩宿フォーラム「石器製作技術－製作実験と考古学－」
42	上山市商工会 （上山市産業まつり）	上山市体育文化センター	齊藤主税 氏家信行 山田めぐみ 渡邉安奈 向田明夫	2015年 10月31日 ･11月1日	上山市内出土遺物の展示と解説 勾玉作り体験・弓矢体験
43	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	須賀井新人	2015年 11月8日	第17期考古学セミナー「庄内地域の縄文時代中期前葉から中葉の遺跡」

No.	依頼者名	派遣場所	派遣職員名	期日	内　容
44	山形県立博物館	山形県立博物館　講堂	黒坂雅人	2015年 11月14日	27年度考古学講座「やまがたの土偶」『縄文の女神と西ノ前遺跡』
45	鶴岡市教育委員会	鶴岡市朝日中央コミュニティセンター　すまいる	天本昌希 山田めぐみ 渡邉安奈 向田明夫	2015年 11月15日	『足元には文化財展』 ～展示解説・体験講座～
46	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	伊藤邦弘	2015年 11月18日	平成27年度第1回運営協議会
47	村山市文化財保護委員会	村山市農村環境改善センター　他	阿部明彦	2015年 11月19日	村山市文化財保護委員会
48	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	南陽市中央公民館 えくぼプラザ	小林圭一 水戸部秀樹	2015年 11月28･29日	第Ⅹ期うきたむ学講座
49	山形県立産業技術短期大学校	山形県立産業技術短期大学校	菅原哲文	2015年 12月2日	現代コミュニケーション論
50	福島市教育委員会	じょーもぴあ宮畑	大場正善	2015年 12月6日	宮畑講座「石器製作の理論と実際」 宮畑講座スペシャル「石器づくり職人がやってくる」
51	早稲田大学文学部考古学研究室	早稲田大学文学部考古学研究室	大場正善	2015年 12月18日	『考古学演習６（実験考古学）』
52	山形県立博物館	山形県立博物館　講堂	水戸部秀樹	2015年 12月19日	27年度考古学講座「やまがたの土偶」『縄文時代前期･中期の山形の土偶』
53	松本市教育委員会	松本市立考古博物館	小林圭一	2016年 1月7～9日	エリ穴遺跡遺物整理・報告書刊行に係る指導・助言
54	山形県立博物館	山形県立博物館　講堂	小林圭一	2016年 1月23日	27年度考古学講座「やまがたの土偶」『縄文後半期の土偶と集落』
55	酒田市教育委員会	酒田市　まいづる荘	髙桑　登	2016年 1月26･27日	酒田市内出土遺物の鑑定
56	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	水戸部秀樹	2016年 2月7日	考古資料検討会
57	大蔵村教育委員会	大蔵村中央公民館	菅原哲文 安部将平	2016年 2月7日	上竹野遺跡講演会 『上竹野遺跡を発掘して』
58	いわき市考古資料館	いわき市考古資料館	大場正善	2016年 2月13日	いわきに石器づくり職人がやってくる
59	さあべい同人会	山形県生涯学習センター遊学館	菅原哲文	2016年 2月13日	2016年考古学研究発表会
60	天童市西沼田遺跡公園	天童市西沼田遺跡公園	黒坂雅人	2016年 2月14日	縄文の女神と西ノ前遺跡について
61	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	伊藤邦弘	2016年 2月16日	平成27年度第2回運営協議会
62	舟形町教育委員会	舟形町中央公民館	齊藤主税	2016年 3月2日	第2回舟形町文化財保護委員会

⑩資料貸出

No.	貸出先	借用目的	貸出期間	資料名	数量
1	舟形町教育委員会	「縄文の女神」里帰り展での展示で使用するため	2015年4月1日 ～11月18日	西ノ前遺跡 同　写真資料等	83 32
2	山形県立博物館	山形県立博物館プライム企画展で展示するため	2015年5月1日 ～9月30日	高瀬山遺跡、 山形西高敷地内遺跡、 西海渕遺跡、山居遺跡、 原の内A遺跡、中川原C遺跡、 立泉川遺跡、山谷新田遺跡、 蕨台遺跡、中村A遺跡、 宮の前遺跡、釜淵C遺跡、 砂子田遺跡、げんだい遺跡、 西ノ前遺跡	97
3	山形県立博物館	山形県立博物館プライム企画展のパネル展示に使用するため	2015年5月1日 ～9月30日	下叶水遺跡、釜淵Ｃ遺跡 写真資料	3
4	山形市立蔵王第一中学校	授業に使用するため	2015年6月22日 ～6月30日	太郎水野遺跡、西海渕遺跡、 百刈田遺跡	13
5	舟形町教育委員会	国宝「縄文の女神」里帰り展で展示するため	2015年7月27日 ～8月10日	原の内Ａ遺跡、落合遺跡、 西海渕遺跡、中川原Ｃ遺跡	22
6	長井市教育委員会	長井市古代の丘資料館企画展「縄文土器を科学する」の展示のため	2015年7月28日 ～11月13日	熊ノ前遺跡、吹浦遺跡、 宮の前遺跡、 市野々向原遺跡、 砂子田遺跡、かっぱ遺跡、 釜淵C遺跡、水木田遺跡、 小反遺跡	27
7	寒河江市教育委員会	寒河江市埋蔵文化財フェアにて展示のため	2015年7月24日 ～9月6日	お仲間林遺跡、富山遺跡、 高瀬山遺跡　写真資料	48
8	寒河江市教育委員会	寒河江市埋蔵文化財フェアにて展示のため	２015年8月10日 ～9月7日	富山遺跡、高瀬山遺跡、 月山沢遺跡、弓張平B遺跡	175
9	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	第23回企画展『重要文化財水木田遺跡展』パネル展示に使用するため	2015年9月15日 ～11月29日	水木田遺跡　写真資料	13
10	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	第24回企画展『重要文化財水木田遺跡展』参考資料として	2015年9月11日 ～12月9日	的場遺跡、村中遺跡、 古那Ｂ遺跡、助川遺跡、 上台遺跡、熊ノ前遺跡、 山形西高敷地内遺跡、 土崎遺跡、梵天塚遺跡、 中谷内遺跡、山居遺跡、 宮の前遺跡、砂子田遺跡、 小松原窯跡、長者屋敷遺跡、 坂ノ上遺跡 の　各スライドアルバム	15
11	山辺町相模地区郷土史研究会	郷土史研究会の資料として	2016年1月6日 ～1月21日	物見台遺跡	12

⑪資料掲載許可

No.	貸出先	借用目的	資料名	数量
1	新潟市文化財センター	企画展「蒲原の王墓　古津八幡山古墳と豪族の屋敷」でのパネル展示およびパンフレットへの掲載のため	南原遺跡　写真資料	3
2	山形県立博物館	山形県立博物館プライム企画展のパンフレット等に使用するため	中川原Ｃ遺跡、 原の内Ａ遺跡、山居遺跡、 立泉川遺跡　写真資料	10
3	国立歴史民俗博物館	『歴博』190号掲載のため	加藤屋敷遺跡　写真資料	1
4	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	考古資料館『館報』に掲載のため	水木田遺跡、下長橋遺跡 写真資料	3
6	株式会社　小学館	『日本美術全集』（全20巻）第1巻「日本美術創世記」（縄文･弥生･古墳）に掲載のため	水木田遺跡　写真資料	1
7	長井市教育委員会	長井市古代の丘資料館企画展「縄文土器を科学する」のパネル展示と図録掲載のため	水木田遺跡、小反遺跡 写真資料	26
8	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	第23回企画展図録『重要文化財　水木田遺跡展』への掲載およびパネル展示に使用するため	西海渕遺跡、西ノ前遺跡、 西向遺跡　写真資料	9
9	愛知県総務部	『愛知県史　通史編１　原始・古代』に掲載のため	上高田遺跡　写真資料	1
10	山形考古学会	山形考古　第45号に掲載のため	八反遺跡　写真資料	4
12	国立歴史民俗博物館	『古代出土文字資料画像データベース』に掲載のため	今塚遺跡、浮橋遺跡、 後田遺跡、生石２遺跡、 大楯遺跡、大坪遺跡、 上高田遺跡、上ノ田遺跡、 北田遺跡、北目長田遺跡、 熊野田遺跡、小深田遺跡、 三条遺跡、下長橋遺跡、 関Ｂ遺跡、手蔵田遺跡、 平形遺跡、宮ノ下遺跡、 明成寺遺跡　写真資料	435
13	株式会社　小学館	『ドラえもんふしぎのヒストリー①日本はじまる！』に掲載のため	太郎水野２遺跡　写真資料	1
14	大蔵村村議会広報調査特別委員会	「おおくら議会だより」第106号に掲載のため	上竹野遺跡　写真資料	1
15	山形県最上総合建設部道路計画課	『最上エコポリス通信（平成28年2月号）』に掲載のため	上竹野遺跡　写真資料	4
16	株式会社　国書刊行会	『縄文人の世界観』(仮)に掲載のため	吹浦遺跡　写真資料	1
17	国立歴史民俗博物館	『古代出土文字資料画像データベース』に掲載のため	安田遺跡　写真資料	7
18	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	常設展示ガイドに使用するため	太郎水野２遺跡、百刈田遺跡 黒藤館跡、月ノ木B遺跡 北目１号墳　写真資料	13

⑫出版物

ア.普及・業務報告

書　名	発行年月日
埋文やまがた第55号	2015年9月30日
埋文やまがた第56号	2016年1月31日

イ.調査説明会資料

書　名	発行年月日
上竹野遺跡（第1回）	2015年8月8日
羽黒神社西遺跡　第2次	2015年10月10日
上竹野遺跡（第2回）	2015年10月31日
押出遺跡　第6次	2015年11月23日

ウ.調査報告書

シリーズ№	書　名	発行年月日
224	清水遺跡第8次発掘調査報告書	2016年3月31日

エ.発掘調査速報会資料

資料名	発行年月日
平成27年度発掘調査速報会	2016年2月28日

オ.その他

資料名	発行年月日
平成26年度　年報	2015年5月1日
研究紀要　第8号	2016年3月31日

⑬ホームページ

主な項目と内容は以下のとおりです。

・発掘調査遺跡一覧	発掘調査遺跡や整理作業中の遺跡の紹介
・発掘調査速報	調査期間中、遺跡ごとの調査状況を毎週更新して紹介
・イベント情報	ふるさと考古学講座、調査説明会、外部展示、各種イベント情報の提供
・センター刊行物案内	調査報告書、広報誌などの刊行物の紹介
・学校教育への協力	出前授業の紹介、埋蔵文化財を活かした授業のアイデアなどの提供とその状況など
・埋文やまがた	広報誌「埋文やまがた」を紹介するとともに、これまでに刊行したバックナンバーの閲覧
・センター概要	センターの紹介や、情報公開制度に基づいた、センター情報の提供

（3）情報処理

収蔵図書データベース	新収蔵図書 1，６３２冊 のデータ入力実施(File Maker Pro使用)

ISSN 1341-397X

年　　報

平成27年度

2016年５月１日　発行

発　行　　公益財団法人　山形県埋蔵文化財センター
〒999－3246
山形県上山市中山字壁屋敷5608番地
☎023－672－5301㈹

印　刷　　田宮印刷株式会社

Yamagata Archaeology Center

当センターの記章としているこの図柄は、
Yamagata
Archaeology
Center
の3つの頭文字をあしらったものです。特に**Y**は、国宝「縄文の女神」をイメージしています。